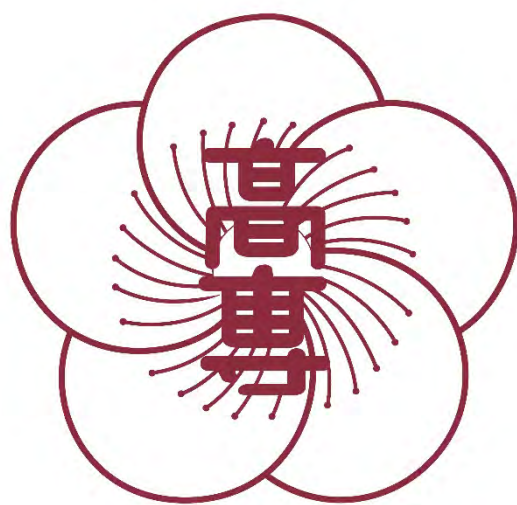


令和5年度 年次報告書

—委員会等による活動報告及び点検評価結果—



茨城工業高等専門学校

目 次

1. 学生の受入（入学試験委員会）	1
2. 教育内容等（教務委員会）	8
3. 教育内容等（専攻科委員会）	19
4. 学生支援（学生委員会）	22
5. 寮生支援（寮務委員会）	27
6. 広報活動（広報委員会）	31
7. 学生健康支援（学生健康センター）	35
8. 図書館運営（学術総合情報センター）	38
9. 情報化推進（学術総合情報センター・情報セキュリティ管理委員会）	46
10. 国際化推進（グローバル教育センター）	48
11. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）	54
12. 地域連携・研究活動 （副校長（地域連携・評価）、産学連携センター）	56
13. 教育組織（教員任用審査会）	62
14. 教育支援組織（事務部）	64
15. 教育支援組織（技術教育支援センター）	67
16. 予算及び施設・整備（総務委員会）	75
17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）	79
18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）	82

1. 学生の受入（入学試験委員会）

（1）取組実績

①入試広報活動

1) 地区別学校説明会

7月15日から8月6日の間に県内7会場（本校、つくば、日立、笠間、牛久、鹿嶋、土浦）で学校説明会を実施した。学校概要、在校生及び卒業生の学校紹介、入試制度（WEB出願制度含む）等について説明を行った。中学生（504名）及び保護者等が参加した。

2) 中学校進路指導担当教員対象学校説明会

学校概要、募集要項及び具体的なWEB出願手続方法等について説明を行った。

回	日時	場所	参加校	合計
第1回	10月11日（水）14:00～16:00	本校視聴覚教室	17校	48校
第2回	10月26日（木）14:00～16:00	本校視聴覚教室	31校	

3) 中学校主催学校説明会

中学校からの依頼により教員や学生を派遣し本校の説明や模擬授業を行った。令和5年度は22校で実施した。

4) KOSEN FES 2023

国公立高専合同説明会 2023 東京会場及び大阪会場に出展し、本校入学希望者向けにアピールを行った。東京会場では、本校からは4つのブース出展と、オフライン・オンライン個別相談会、さらに高専機構本部から招待を受けた高専 GCON 出場学生によるポスターセッションを実施し、小中学生とその保護者等へ茨城高専の特色と特長を紹介した。

5) 茨城県進学フェア 2023

NPO 法人主催の茨城県進学フェア 2023（柏会場、筑西会場、日立会場、神栖会場、水戸会場、つくば会場）に参加し、本校の説明を行った。

6) 一日体験入学

9月23日（土）に1日体験入学を実施した。中学生対象に各系の模擬授業及び模擬実験を行ったほか、入試制度説明、キャンパス案内等を行った。事前予約制とし、449名の中学生が参加した。

7) 個別学校見学

中学生及び保護者等からの個別依頼に対応し、施設見学や受験案内等を行った。

8) 入試広報資料の作成

入試広報資料を作成し、中学校や学習塾等へ配布した。

種類	名称	部数	備考
リーフレット	学校説明会リーフレット	31,000枚	
パンフレット	学校説明会資料	5,000部	
パンフレット	キャンパスガイド2024	7,500部	

9) 募集要項の作成

本科入学者募集要項は、令和5年度入学者選抜試験からWeb出願サイトからの出願に伴い、出願書類の様式が無い簡易版を作成し県内中学校及び近隣の他県にある過去に本校へ出願した生徒がいた中学校に配布した。

- ・令和6年度本科入学者募集要項 … 2,500部印刷、県内外中学校、学習塾等へ送付
- ・令和6年度第3学年編入学者（外国人対象）募集要項 … 高専機構本部が作成
- ・令和6年度第4学年編入学者募集要項 … 300部印刷、茨城県内高等学校へ送付
- ・令和6年度専攻科入学者募集要項 … 300部印刷

②入学試験委員会の開催

1) 第1回

開催日：令和5年5月11日（木）

- 議題：1) 令和6年度専攻科入学者推薦選抜試験合格者判定について__資料1
- 2) 令和6年度専攻科入学者タイ政府奨学金留学生特別推薦選抜合格者判定について__資料2
- 3) 令和6年度第4学年編入学試験業務日程（案）について__資料3
- 4) 令和6年度第4学年編入学生募集要項（案）について__資料4
- 5) 令和5年度本科入学試験状況及び新入生アンケート結果について__資料5-1・2
- 6) 令和6年度入学者選抜試験日程（案）について__資料6
- 7) その他

2) 第2回

開催日：令和5年6月13日（火）

- 議題：1) 令和6年度専攻科入学者学力選抜試験合格者判定について……………資料1
- 2) 本科推薦選抜試験の定員検討について……………資料2-1, 2-2, 2-3
- 3) その他

3) 第3回

開催日：令和5年9月5日（火）

- 議題：1 令和6年度第4学年編入学生選抜試験合格者判定について……………資料1
- 2 令和6年度入学者募集要項（案）について……………資料2
- 3 その他

4) 第4回

開催日：令和5年10月25日（水）

- 議題：1 2024年度タイ高専対象第3学年編入学試験に係る合否判定について・資料1
- 2 令和6年度入学者推薦選抜試験業務日程表（案）について……………資料2
- 3 令和6年度入学者推薦選抜試験業務担当者選出人員（案）について…資料3
- 4 令和6年度入学者選抜学力検査、帰国子女特別選抜及び外国人選抜試験

業務日程表（案）について……………資料 4

5 その他

5) 第 5 回

開催日：令和 6 年 1 月 1 0 日（水）

- 議題 1 令和 6 年度入学者選抜学力検査、帰国子女特別選抜及び外国人選抜試験
業務日程表の変更について……………資料 1
- 2 令和 7 年度専攻科入学者推薦選抜・タイ政府奨学金留学生特別選抜試験
業務日程表について……………資料 2
- 3 令和 7 年度専攻科入学者学力選抜・社会人特別選抜試験業務日程表について
……………資料 3
- 4 令和 7 年度専攻科学生募集要項について……………資料 4、5
- 5 令和 6 年度入学者推薦選抜試験の実施について……………資料 6
- 6 入学者選抜試験業務担当者の選任について……………資料 7
- 7 第 4 学年編入学生選抜試験の実施時期について……………資料 8
- 8 その他

6) 第 6 回

開催日：令和 6 年 1 月 1 8 日（木）

- 議題：1) 令和 6 年度入学者推薦選抜試験合格者判定について……………資料 1
- 2) 令和 6 年度入学者推薦選抜試験追試験について……………資料 2
- 3) その他

7) 第 7 回

開催日：令和 6 年 2 月 2 日（金）

議題：1. 令和 6 年度入学者学力選抜試験の実施について

8) 第 8 回

日時：令和 6 年 2 月 5 日（月）

- 議題：1) 令和 6 年度入学者推薦選抜試験（追試験）合格者判定について…資料 1
- 2) その他

9) 第 9 回

日時：令和 6 年 2 月 1 4 日（水）

- 議題：1. 専攻科申合せ_専攻科学生選抜基準の改正について
2. 令和 6 年度入学者選抜学力検査合格者判定について
3. 令和 6 年度入学者学力選抜試験（追試験）の実施について

10) 第 10 回

日時：令和 6 年 2 月 26 日（月）

議題：1. 令和 6 年度入学者選抜学力検査（追試験）の合格者について

11) 第 11 回

日時：令和6年3月8日（金）

議題1. 入学者選抜に関する規則の改正について

2. 令和7年度入学者学力選抜におけるつくば会場について
3. その他

③入学試験の実施

1) WEB 出願の導入

令和6年度入学者選抜試験も、WEB 出願（miraicompass）により出願を受付した。WEB 出願の導入により、従来の紙の入学願書からオンライン上での入力へ変更され、出願者の情報をデータで入手することが出来るようになった。また、受験料の支払いもオンラインで済ませることが可能となり、出願者が銀行に行く必要が無くなった。

2) 試験実施のガイドライン（高専機構学務課）に基づき試験を実施した。

◇推薦選抜（会場：本校）

- ・WEB エントリー：令和5年12月7日（木）～令和5年12月25日（月）
- ・出願書類受付：令和5年12月21日（木）～12月25日（月）
- ・本試験日：令和6年1月16日（火）
- ・合格内定者発表：令和6年1月22日（月）

◇推薦選抜【追試験】（会場：本校）

- ・追試験日：令和6年2月1日（木）
- ・合格内定発表：令和6年2月7日（水）

◇学力検査選抜（会場：本校・つくば国際会議場）

- ・WEB エントリー：令和6年1月9日（火）～1月26日（金）
- ・出願書類受付：令和6年1月23日（火）～1月26日（金）
- ・本試験日：令和6年2月11日（日）
- ・合格者発表：令和6年2月16日（金）

※帰国子女特別選抜試験、外国人特別選抜試験は無し

◇学力検査選抜【追試験】

- ・追試験日：令和6年2月25日（日）
- ・合格発表：令和6年2月27日（火）

○令和6年度本科入学者試験状況

学科	入試全体					推薦選抜			学力選抜		
	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	出願倍率	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数
国際創造工学	200	311 (62)	309 (62)	212 (42)	1.6	118 (38)	118 (38)	62 (15)	248 (47)	246 (47)	150 (27)

※下段（ ）は女子で内数

学科	帰国子女特別選抜			外国人特別選抜			入学者数	タイ留学生入学者数	入学者数合計
	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数			
国際創造工学	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	210 (41)	0 (0)	210 (41)

※下段（ ）は女子で内数

◇入学手続・説明会：令和6年2月28日（水）に昨年と同様に開催したが、後日、本校のHPに説明動画を掲載した。入学確約書提出者には、説明動画の掲載URLをメールした。

3) 令和6年度第3学年編入学試験（外国人対象）

国立高専機構本部統括による外国人（私費留学生）対象の第3学年編入学試験

*本校第3学年編入学試験（外国人対象）合否判定基準に基づき合否を判定するが、本校への志願者はなし。

4) 令和6年度第4学年編入学試験

- ・編入学願書受付：令和5年8月1日（火）～8月2日（水）
- ・編入学試験：令和5年9月1日（金）
- ・合格者発表：令和5年9月8日（金）
- ・編入者説明会：令和5年12月5日（火）
- ・入学手続説明会：令和6年3月4日（月）

○ 令和6年度第4学年編入学者試験状況

募集主専攻系	出願者数（高校：科）	受験者数	合格者数	入学者数
機械・制御系	4（機械1、理数1、普1）	4	3	3
電気・電子系	0	0	0	0
情報系	3（機械1、情報2）	3	1	1
化学・生物・環境系	4（普通4）	4	1	1
合計	11	11	5	5

5) 令和6年度専攻科入学者選抜試験

推薦選抜

- ・願書受付：令和5年4月25日（火）～4月26日（水）
- ・面接試験：受験者が全員本校学生のため面接はなし。
- ・合格者発表：令和5年5月16日（火）

学力選抜

- ・願書受付：令和5年5月29日（月）～5月31日（水）
- ・学力検査：令和5年6月10日（土）

※社会人特別選抜は、出願者なし

- ・合格者発表：令和5年6月16日（金）

○ 令和6年度専攻科入学者選抜試験状況

産業技術システムデザイン工学専攻（募集定員：20人）

専攻科コース	推薦選抜		学力選抜			タイ政府奨学金留学生特別推薦選抜	入学者数
	出願者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数		
機械工学	6	6	4	4	1	1	8
電気電子工学	3	3	9	9	4	0	3
情報工学	6	6	9	9	7	0	8
応用化学	6	6	4	4	1	1	7
合計	21	21	26	26	13	2	26

他高専・社会人の出願者なし

④令和6年度外国人留学生の受入

学年	学科（系）	性	国籍	身分	備考
3年	機械・制御系	男	インドネシア	国費	
	機械・制御系	男	マレーシア	政府派遣	
	情報系	男	ラオス	国費	
	情報系	女	マレーシア	政府派遣	
	化学・生物・環境系	男	ラオス	国費	
	化学・生物・環境系	女	ラオス	国費	

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

①入試広報活動

KOSEN FES や茨城県進学フェアなどの進学イベントにも積極的に参加した。地区別学校説明会では、令和4年度に引き続き、本校学生及び本校卒業生による学校説明を取り入れ、より受験生に近い視点で学生生活や受験の取組等を伝えることを行った。茨城県進学フェアでは、冊子及びチラシに広告を掲載した。

②本科入学試験（WEB出願導入）

令和4年度に引き続き、本科入学試験でWEB出願（miraicompass）を導入した。

③本科入学試験（つくば会場）

令和4年度に引き続き、つくばエクスプレス沿いの中学生も受験しやすいように県南の入試会場として、つくば国際会議場でも入試を実施した。県南地区の受験者は以下のとおりであった

<県南地区受験者>

R6年度入試	R5年度入試	R4年度入試	R3年度入試
61名	84名	37名	49名

④専攻科入学試験

令和7年度入学者選抜試験から、WEB出願(miraicompass)を導入する予定である。

- ⑤過去4年間の学力検査による選抜合格者の5教科合計(600点満点)の最高点、最低点及び平均点は次のとおりである。

	最高点	最低点	平均点	志願倍率
令和3年度	537	352	426	1.5
令和4年度	556	362	434	1.4
令和5年度	527	382	440	1.6
令和6年度	541	386	449	1.6

(3) 今後の展開

- ① 昨年度の志願倍率1.6倍を維持したところだが、引き続き広報活動を積極的に行い、志願倍率の増加を目指して戦略的に取り組みを行っていく必要がある。

2. 教育内容等（教務委員会）

令和5年度は5月7日までは新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をした上で、下記とおり対面授業を基本として授業を実施した。5月8日以降は、学校保健安全法施行規則の一部改正により、新型コロナウイルス感染症は、インフルエンザと同様の位置づけとなり、下記の対応とした。

◎マスク着用について

学校での生活、すなわち、授業、実験・実習、部活動等において、マスクの着用は個人の判断に委ねます。なお、マスクの着脱の考え方は個人により違いがあることを理解し、おたがいを尊重するよう心がけてください。

また、寮生には体調不良時に帰宅することなどが基本的に困難な遠隔地の日本人や留学生がいます。体調に普段とは異なる変化がある場合は、マスクの着用や他者との距離を保つなどの自らできる感染対策への協力をお願いいたします。

◎体調不良時について

体調不良時には無理をして登校せず、保護者等から本校へ欠席の連絡を入れていただき、症状に応じて医療機関を受診してください。また医療機関の受診状況を担任へ知らせてください。新型コロナやインフルエンザ等、学校において予防すべき感染症の罹患と診断された場合は出席停止となります。（学校において予防すべき感染症以外での欠席の場合は出席停止や特別欠席とはなりません。）

◎学生本人が陽性となった場合

学生本人が陽性となった場合は、以下の条件を全て満たした日から登校を可能とします。（令和5年4月28日付け文部科学省初等中等教育局長通知）

①有症状の場合

- ・発症日を0日目として5日間が経過していること（6日目解除）
- ・症状が軽快（※）した日を0日目として1日間が経過していること
※解熱剤を使用せずに解熱し、かつ、呼吸器症状が改善傾向にあること

②無症状の場合

- ・検体を採取した日を0日目として5日間が経過していること（6日目解除）

③登校後も発症から10日間を経過するまでは、マスクの着用を推奨すること

④令和5年5月8日前に新型コロナウイルス感染症への感染が確認された場合、同日以降は本通知に基づき対応する。

◎濃厚接触者について

令和5年5月8日以降は、濃厚接触者としての特定は行われなくなりますので、今

後は、行動制限及びその協力要請は行いません。

新型コロナウイルス感染症の感染が確認されていない者については、出席停止の対象となりません。

4月5日（水）：入学式

4月6日（木）：始業式

6月1日（木）～6月7日（水）：前期中間試験

7月28日（金）～8月4日（金）：前期期末試験

8月11日（金）：前期授業終了

8月23日（水）～8月29日（火）：夏季集中講義を対面形式で実施

9月19日（火）：後期授業開始

11月7日（火）～11月13日（月）：後期中間試験

1月24日（水）～1月31日（水）：後期期末試験

3月4日（月）：登校日

3月15日（金）：終業式

3月16日（土）：卒業式・修了式

（1）取組実績

学生の教科履修及び学籍等については、教務委員会において立案の上、次の活動を行った。

①キャリア教育

国際創造工学基礎（1年）にキャリア教育を導入した。また、共有ドライブを活用して、就職情報を学生へ情報共有した。

②ボランティア活動の支援

無報酬のボランティア活動で総活動時間が30時間を超えるものは、学生からの申請を受けて「社会貢献」として単位化している。令和5年度の「社会貢献」の単位認定者は18名であった。うち17名はMIPPEプラスの参加者である。

③モデルコアカリキュラムによる教育の質保証の取組推進

CBTを12月20日（水）に本科1年生（化学、数学）、1月10日（水）に本科2年生（数学）、11月16日（木）に本科3年生（物理、数学）を対象に実施した。

④インターンシップの単位認定

令和5年度のインターンシップの単位認定者は本科68名、専攻科24名であった。うち本科4名、専攻科4名はMIPPEプラスの参加者である。

⑤セキュリティを含む情報教育

「情報リテラシー」の授業において、セキュリティを含む情報教育を行った。

⑥Webによる履修登録

令和5年度も選択科目の履修申請を Google forms による Web 登録方式にて行い、登録作業の効率化を図った。

⑦主専攻・副専攻の決定

国際創造工学科6期生（令和4年度入学）の主専攻・副専攻配属を本人の希望と成績順位により決定し、以下のとおり配属された。希望した系への配属割合は、第1希望 85.7%、第2希望 10.8%、第3希望 3%、第4希望 0.5%であった。

＜主専攻＞	機械・制御系	78名（第1希望57名、第2希望15名、 第3希望5名、第4希望1名）
	電気・電子系	39名（第1希望33名、第2希望5名、第3希望1名）
	情報系	39名（第1希望38名、第2希望1名）
	化学・生物・環境系	39名（第1希望39名）
＜副専攻＞	機械・制御系	33名
	電気・電子系	45名
	情報系	44名
	化学・生物・環境系	45名
	グローバル系	28名

⑧規則等に関すること

実態に合った内容に修正するため、以下の規則の改正及び申合せの改正を行った。

- ・茨城工業高等専門学校留学規則の一部改正
- ・学則及び学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程の一部改正
- ・感染症等の発生に伴う学級担任及びコース主任の手続きに関する申合せの改正

⑨令和5年度教務委員会

令和5年度は以下のとおり委員会を回開催し、メール審議を回行った。

回数	開催日	議題
メール 第1回	令和5年4月6日	1. 他大学等履修申請について 本科生2名の、長岡技科大（第1学期）1科目、茨城大学（前期）1科目の履修申請について
第1回	令和5年4月27日	1. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム【資料1】

		<p>申請関係</p> <ul style="list-style-type: none"> □茨城工業高等専門学校 数理データサイエンス AI 教育プログラム運用指針の改訂【資料2】 □R4年度プログラムの自己点検【資料3、4】 □HP公開内容【資料5】 □プログラムの概要【資料6】 □申請書の確認【資料7】 <p>2. 長期インターンシップ参加学生の企業実習（本科）、実務研修（専攻科）の単位認定について</p> <ul style="list-style-type: none"> □専攻科生（AIコース）より、長期インターンシップへの参加希望、単位認定希望あり【資料8】 <p>3. 個人的な活動での特別欠席について</p> <ul style="list-style-type: none"> □個人でコンテスト等へ参加する学生が出てきた。入賞等すれば本校のPRにもつながる。 □関連する規則【資料9】 <p>4. 知能・技能審査による単位認定【資料10】</p>
メール 第2回	令和5年5月23日	<p>1. 感染症等の発生に伴う学級担任及びコース主任の手続きに関する申合せの改正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律では、感染症について感染力や感染した場合の重篤性などを総合的に勘案し、1～5類等に分類し、感染拡大を防止するために行政が講ずることができる対策を定めており、新型コロナウイルス感染症の位置づけは、これまで、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」としていたが、令和5年5月8日から「5類感染症（インフルエンザと同様）」になったため、[11]感染症等の発生に伴う学級担任及びコース主任の手続きに関する申合せの学校において予防すべき感染症の種類及び出席停止期間の基準を改正する。
メール 第3回	令和5年6月23日	<p>1. 留学終了に伴う復学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年8月16日から Chester Joplin Inverness High school に留学していた井上零斗（出発時 3M1）さんが留学を終了し、復学願及び留学活動報告書を受領しました。 <p>2. 留学終了に伴う留学当初に在籍した学年の単位認定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学終了に伴い、留学先の学校で修めた科目の成績を受

		<p>領しました。</p> <p>3. 学生の休学について（1名）</p> <p>4. 知識・技能審査単位認定について 知識・技能審査による単位認定申請のあった22名延べ27件</p>
メール 第4回	令和5年7月7日	1. 学生の休学について
第2回	令和5年7月13日	<p>1. 学生の転学について 本科生1名が8/1付の転学を希望しているためご審議願います。【資料1】</p> <p>2. 改訂版MCC到達目標を現行カリキュラムが満たしているかの確認について 改訂版MCC、到達目標（Excel）等の資料の保存場所 Alaska/KYOUIN/MCC 改訂対応/ 配布資料 【資料2】改訂版MCC概要（4/21MCC改定案説明会資料） （各部系への依頼） H29年度の確認作業の結果を参考に、現行の教育カリキュラムが、改訂版MCCの到達目標を達成しているかの確認 8月末まで その後の予定： ディプロマポリシーの見直し、カリキュラム改善検討（10月末）</p> <p>3. 1年生タイ留学生の系変更について タイ留学生から系変更の希望あり、タイ大使館も容認 ◇ タイ留学生の系については日本人学生の特例と同じ扱いにする</p> <p>4. 社会貢献の内容について【資料3】 今夏、MIPPEプラスにて4団体で実施予定</p> <p>5. 校長提案の働き方改革事案についての意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 90分授業の導入 <input type="checkbox"/> 対面+オンライン等の効率化 <input type="checkbox"/> 4年生以上の中間試験を授業時間で <input type="checkbox"/> 再試験、仮進級評価試験の合格率の向上の施策 <input type="checkbox"/> 2学年から系別のクラス <p>6. その他</p>

		掃除分担表
メール 第5回	令和5年8月2日	1. 知識・技能審査単位認定について 知識・技能審査による単位認定申請のあった10名延べ10件
メール 第6回	令和5年8月10日	1. 知識・技能審査単位認定について【資料1】 知識・技能審査による単位認定申請のあった1名延べ1件 2. 社会貢献活動の事前申請について【資料2】 本科生1名の社会貢献活動実施について
メール 第7回	令和5年8月23日	1. 学生の転学について【資料1】 本科生1名の転学について
メール 第8回	令和5年9月5日	1. 留学願について【資料1】 機械・制御系（制御コース）3年生から留学願が提出されました。留学期間は令和5年8月27日から令和6年6月27日までの予定です。 2. インドネシアガジャマダ大学フィールドスタディについて【資料2】 本校が企画したインドネシアガジャマダ大学フィールドスタディ（研修期間：令和5年9月2日から9月15日）について、研修終了後にグローバル研修または企業実習の単位振替を学生が選択できることについて 3. 学生の休学について 本科生4名の休学について 4. 知識・技能審査による単位認定について【資料4】 知識・技能審査による単位認定申請者5名延べ7件について 5. 他大学等単位申請について【資料5】 ・放送大学 単位申請者1名2科目 6. 社会貢献活動の単位認定申請について【資料6】 学生1名の社会貢献の単位認定について 7. 研究生の延長申請について【資料7】 研究生1名の延長申請について
メール 第9回	令和5年9月13日	1. 本科生の休学について 本科生1名の休学について 2. 高専間提供科目の履修申請について 令和5年度後期に他高専が開講する科目の履修申請について

メール 第10回	令和5年9月22日	1. 学生の転学について
第3回	令和5年10月16日	<p>1. 他大学の単位認定について（資料1）</p> <p>2. 知能・技能審査による単位認定について（資料2）</p> <p>3. 単位一括認定を認める留学期間について 現状：10ヶ月以上1年未満（資料3） しかし多くの国が開講期間が10ヶ月に満たない（資料3） 改正案：9ヶ月以上1年未満とする（資料3）</p> <p>4. 既卒者が大学へ編入希望する際の推薦について 現状：本校を卒業した学生（研究生を含む）が大学へ編入する際の推薦についてのルールが無い。 （検討事項）</p> <p>5. 改訂版 MCC 対応確認 L, M1, E, I, C：8月末 G, M2：10月13日 ・数学、自然科学（物理、化学、ライフサイエンス、アースサイエンス）、国語、英語、社会は対応 ・工学基礎についての状況（資料4） ・基盤的資質・能力、創造性・デザイン能力（資料5） ・コア科目（資料6） 各系で再検討・・・12月末</p> <p>6. ディプロマポリシーの見直し、検討 現状）卒業までに修得する能力（学習・教育目標）</p> <p>1) 工学の理念に基づいて、専門工学の基礎知識を修得できる能力</p> <p>2) 専門工学と人文・社会科学の知識・技術を総合的に活用し、自らが立てた課題を解決できる能力</p> <p>3) 国際的な視野に立って他者と協働しながら社会的課題に取り組むことのできる、姿勢と行動力およびコミュニケーション能力</p> <p>7. 時間割について 長岡高専の例（新規とある部分、校長提案） 問題点 ・50分授業4時間目の後、昼休みが35分しかない。 ・50分授業6時間目の後90分授業7・8時限へ接続できな</p>

		<p>い。90分授業7・8時限のスタートを14:50からとすると終了は16:20となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50分授業8時間目を設定するとすると15:45～16:35。 <p>現行時間割（後期）</p> <p>50分授業が4時間目にあるクラス 月：1-2, 1-4, 火：1-1, 1-2, 2-2, 2-3, 3M1, 4M2, 4E, 水：2-2, 3E, 4I, 5M1, 木：1-1, 2-1, 3M1, 3M2, 3C, 5M1, 金：1-1, 1-2, 1-3, 1-4, 3M1, 3C, 4M1,</p> <p>50分授業が8時間目にあるクラス 火：4E, 水：全（OH）</p> <p>◇「50分授業を4時限目に入れない」条件をクリアできない可能性大 対応）</p> <p>R6年度は従来通りの時間割編成とし、できる限り8時間目を全学年で授業を入れない曜日を作る。難しければ教員会議はOHの時間に実施する。</p> <p>R7に向けて90分授業の可否について議論、検討を進める。</p> <p>R6年度時間割編成予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習についての実施曜日、実施時間の希望調査・・・ <p>11月中旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者・・・11月末 <p>（来年度に向けての意見交換（原級留置を減らすために））</p> <p>8. 再試験、仮進級に関する30点ルールの撤廃について（R6年度以降）</p> <p>現在、前期成績、後期成績が30点に満たない場合は再試験の受験を認めていない。また、学年末成績が30点未満の学生には仮進級を認めていない。このような学生から再起して勉学する機会を奪わないようにルール改正したい。</p> <p>原案1） 再試験、仮進級とも30点未満でも認める。</p> <p>原案2） 仮進級に限り30点未満でも認める。</p> <p>原案3） 再試験に限り30点未満でも認める。</p>
--	--	--

		<p>9. 仮進級について (R6 年度以降) 原案 1) 4 年生にも仮進級 (3 科目以内) を認める。 10. その他</p>
メール 第 11 回	令和 5 年 12 月 19 日	<p>1. 社会貢献活動の事前申請について【資料 1】 本科生 5 名の社会貢献活動実施について</p>
第 4 回	令和 6 年 1 月 9 日	<p>1. 他大学の単位認定について (資料 1) 2. 知能・技能審査による単位認定について (資料 2) 3. グローバル研修の単位認定について (資料 3) 4. 他大学の科目履修申請について (資料 4) 5. 学生の転学について (資料 5) 6. 就職活動並びに進学活動における学校推薦基準に関する 申合せの改正について (資料 6) 7. R6 年度年間行事予定表 (資料 7、8) 8. 改訂版 MCC への対応状況 (資料 9、10、11) 9. ディプロマポリシーの点検、見直し (資料 12) 10. R6 年度シラバス入力作業について (資料 13、14、15) その他 ・ 中間試験の成績の算出方法について</p>
第 5 回	令和 6 年 2 月 15 日	<p>1. 知識・技能審査による単位認定について (資料 1) 2. グローバル研修の単位認定について (資料 2) 3. 社会貢献活動の時間数認定について (資料 3) 4. 社会貢献活動の単位認定申請について (MIPPE プラス) (資料 4) 5. インターンシップ (企業実習) の単位認定について (資 料 5) 6. 学生の退学について (資料 6) 7. 学生の復学について (資料 6) 8. 学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程 の一部改正について (資料 7) 9. 定期試験時間割について (資料 8) 10. 第 3 学年編入外国人留学生の副専攻の選択について (資料 9) 11. DP, CP、AP の見直しについて (資料 10) 12. R6 年度行事予定表について (資料 10) 13. 一般科目と専門科目教員の懇談会 (資料 10) 14. 混合学級について (資料 10)</p>

		その他
メール 第 12 回	令和 6 年 2 月 27 日	<p>1. シンガポールポリテクニクでの研修について【資料 1】</p> <p>本校が企画したシンガポールポリテクニク研修（研修期間：令和 6 年 3 月 1 日から 3 月 13 日）について、研修終了後にグローバル研修または企業実習の単位振替を学生が選択できることのご審議をお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル研修：シンガポールポリテクニクにおける研修会にて、現地の学生と交流しながら、科学技術、社会・環境及び文化に関するテーマで、それぞれ学習活動、討論及びプレゼンテーションを行う。 ・企業実習：シンガポールポリテクニクにおける研修会への参加 <p>実質 1 1 日間 7 4 時間</p>
メール 第 13 回	令和 6 年 2 月 27 日	<p>1. 他大学開講科目の単位認定について【資料 1】</p> <p>長岡技術科学大学開講科目を受講した学生の単位認定について</p> <p>2. グローバル研修の単位認定について【資料 2】</p> <p>インドネシア・フィールドスタディー研修に参加した学生の単位認定について</p> <p>3. 学則及び学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程の一部改正について【資料 3】</p> <p>学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程第 12 条同一学年に在籍できる期間は、休学又は外国留学した場合を除き、原則として 2 年を限度とする を削除することに合わせて、学則に在学年限を追記することについてご審議願います。</p>
メール 第 14 回	令和 6 年 3 月 21 日	<p>1. 令和 6 年度研究生について【資料 1】</p> <p>研究生 9 名の入学について</p> <p>(報告事項)</p> <p>1. 令和 6 年度行事予定表については【資料 2】のとおりとする</p>
第 6 回	令和 6 年 3 月 25 日	<p>1. 学生の休学、復学、退学及び転学について (資料 1～4)</p> <p>2. 2024 学生のメーリングリスト案について (資料 5)</p> <p>3. 審議事項 (別紙参照)</p> <p>1) R 5 年度 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム修了認定について【資料 a】</p>

	<p>2) DP・CPの見直しについて、CPに基づく科目配置について【資料 b、c】</p> <p>3) 2年生の混合学級をやめ主専攻ごとのクラス編成とすることについて</p> <p>4) 教育課程表の見直しについて</p> <p>5) 4年生以上の科目の中間試験について</p> <p>6) R6 年度清掃分担表について</p> <p>7) 特別活動計画表について</p> <p>4. その他</p>
--	---

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 令和5年度も選択科目の履修申請を Microsoft Forms による Web 登録方式として登録作業の効率化を図った。
- ② 90分授業の可否については、教務委員会で審議した結果として、令和6年度は従来通りの時間割編成とし、できる限り8時間目を全学年で授業を入れない曜日を作る。難しければ教員会議はオフィスアワーの時間に実施する。令和7年度に向けて90分授業の可否について議論、検討を進める。
- ③再試験、仮進級に関する30点ルール撤廃については、教務委員会で審議した結果として、現行の制度を維持することとした。
- ④令和6年度入学生から適用される改訂版 MCC について、現行のカリキュラムが到達目標を達成しているか確認を行い、令和6年度1年生のカリキュラムは改訂版 MCC の到達目標を達成していることを確認した。
- ⑤ディプロマポリシーの見直し及び検討を行い、卒業までに修得する能力（学習・教育目標）に、豊かな教養と高い倫理感をそなえ、自立した社会人として行動できるようになるための人間性、社会性を追加し、他3つの卒業するまでに修得する能力についても、一部変更した。また、カリキュラムポリシーに基づく科目配置についても変更を行った。

(3) 今後の展開

- ① 令和5年度入学生から適用する、高専機構本部が作成した改訂版 MCC に基づくカリキュラム対応について、学年進行で進めていく。

3. 教育内容等（専攻科委員会）

（1）取組実績

専攻科の教科履修及び学籍等については、専攻科委員会において立案の上、次の活動を行った。

①専攻科入学者の確保

本科の学生が専攻科に魅力を感じて進路先として選択してくれるように、学協会で受賞した専攻科学生の記事、専攻科最優秀研究発表賞の受賞者の紹介を、本校HPへ掲載した。

②地域社会及び産業界との連携

令和5年度の特別実験においても、地元の企業が抱える様々な課題を提供してもらい、本校の学生がそれらの課題解決に取り組み実践力を養うことを目的とした地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム（Ibaraki Regional Mutually Inductive Problem-solving Practical Education Program 略して「iR-MIPPEプログラム」）を実施した。

協力企業名：イガラシ綜業株式会社、コロナ電気株式会社、アクモス株式会社、株式会社西野精器製作所、小松製作所株式会社

令和6年3月7日（木）に本校視聴覚教室において成果発表会を行った。協力企業の方にも成果発表会にご出席いただいた。

また、キャリア教育の一環として、令和5年5月23日（火）に、富士フイルム株式会社 人事部 小野佑津希 様及び、ディップ株式会社 人財開発育成部 人財開発育成課 赤堀聡平 様に職種理解について、また、令和5年5月30日（火）に、株式会社ビジコンネクスト 水戸支社 課長 浜田 優輝 様に金融教育について、専攻科1年生を対象としてご講演いただいた。

③特例適用専攻科に係る変更の届出

令和6年度入学生から適用する学修総まとめ科目の指導教員について4名（新規4名）が申請を行い、4名全員の申請が認められた。このことにより、令和5年度末で退職する教員を除き、令和6年4月1日現在での学修総まとめ科目担当教員は32名となった。

④特例適用による学位申請

特例適用専攻科として、学位規則第6条第1項に規定する学士の学位の授与の特例に係る学位授与申請を独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に行い、専攻科2年生全員（17名）が学位を取得した。

⑤令和5年度専攻科委員会

令和5年度は以下のとおり委員会を3回開催し、メール審議を2回実施した。

回数	開催日（期日）	議題
第1回	令和5年11月9日	1. 審議事項：専攻科学力入試選抜について 2. その他
第2回	令和6年1月5日	1. 審議事項1：令和7年度専攻科入学者推薦選抜試験・タイ政府奨学金留学生特別選抜試験業務日程について 2. 審議事項2：令和7年度専攻科入学者学力選抜・社会人特別選抜試験業務日程について 3. 審議事項3：令和7年度専攻科学生募集要項について 4. 報告事項：専攻科入試に関する意見（まとめ） 5. その他
第3回	令和6年2月13日	1. 審議事項1：専攻科実務研修の単位認定について 2. 審議事項2：専攻科2年生単位修得認定について 3. 審議事項3：令和6年度専攻科コース担当教員（案）について 4. 審議事項4：専攻科申合せ 専攻科学生選抜基準の改正について 5. その他
メール 第1回	令和6年3月4日	1. 学生の退学について（1名） 2. 学生の復学について（1名）
メール 第2回	令和6年3月25日	1. 学生の休学について（1名）

⑥茨城大学との連携による先端科学技術講演会について

下記のとおり第3、第4、第5学年、専攻科生及び教職員を対象として先端科学技術講演会を3回開催した。

令和5年6月14日（水）

講演内容：「エネルギーを使わない素子とエネルギーを作る素子 - 情報とエネルギーの関係を考える -」

講師：小峰 啓史（大学院理工学研究科（工学野）電気電子システム工学領域 准教授）

令和5年9月20日（水）

講演内容：「建築空間の視環境設計から考える人間行動科学」

講師：熊澤 貴之（理工学研究科（工学野）都市システム工学領域 教授）

令和5年11月15日（水）

講演内容：「暗号で守るネットのセキュリティ」

講師：米山 一樹（理工学研究科（工学野） 情報科学領域 教授）

（2）自己評価（改善含む）及び課題

- ① 特例適用による学位申請については、令和6年度の申請から、これまで10月に申請していたところ7月申請に変更となり、例年より申請が3ヶ月前倒しされる。そのため、対象者への学位申請手続きの説明を4月に行う。その際、例年申請不備が多い点を学生に周知する。
- ② 本科の学生が専攻科に魅力を感じ進路先として選択してくれるように、専攻科の活動の様子をホームページで積極的に紹介するようにした。今後も、専攻科の志願者が増えるよう本科の学生に対して魅力を周知していく。

（3）今後の展開

令和6年度も地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム（Ibaraki Regional Mutually Inductive Problem-solving Practical Education Program 略して「iR-MIPPEプログラム」）の実施を継続するため、協力企業を募集する。同時に、キャリア教育の一貫として、技術者、研究者、経営者による講演会における講師も併せて募集する。

4. 学生委員会

(1) 取組実績

① 課外活動支援

新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日から「5類感染症」になったことに伴い、課外活動が活発化し始めた。団体の活動場所を調整し、多くの学生が活動再開できるように支援を行った。また、宿泊を伴う合宿研修所の利用を再開した。

以下の部活において外部コーチを委嘱した。

- ・ロボット部、茶道部、吹奏楽部、卓球部、ソフトテニス部、硬式野球部

以下今年度の体育大会、コンテスト等での実績。

■運動部

関東信越地区高等専門学校体育大会結果

- ・陸上競技
 - ：藤田正勝 800m 3位、1500m 1位
 - ：吉田光太郎 走高跳 1位、三段跳 2位
 - ：大塚隆道 走高跳 2位
 - ：加藤暢 円盤投げ 4位、やり投げ 4位
 - ：大和田倫太郎 走幅跳 5位
- ・水泳競技
 - ：河内嵐至 50m 自由形 2位
 - ：梅内星弥 800m 自由形 1位、200m 平泳ぎ 1位
 - ：大竹亜門 100m 平泳ぎ 2位、200m 平及びび 2位
 - ：高野広乃 100m 背泳ぎ 1位
- ・硬式野球競技 : 優勝
- ・バレーボール競技 : 男子団体 優勝
- ・バスケットボール競技 : 予選敗退
- ・サッカー競技 : 準優勝
- ・テニス競技 : 3位以下
- ・ソフトテニス競技 : 3位以下
- ・卓球競技 : 重松祐太・安齋朴音 男子ダブルス 優勝
- ・バドミントン競技 : 廣原幸音・宮崎優怜 女子ダブルス 準優勝
- ・柔道競技 : 高久隆之介 個人戦 66kg 級 3位
- ・剣道競技 : 岡崎紗人 男子個人 3位

全国高等専門学校弓道大会 関東信越地区予選（通信弓道大会）

- ・弓道部
 - ：男子団体 優勝
 - ：女子団体 優勝
 - ：男子個人 神保琉太郎 優勝
 - ：佐甲宇永 2位
 - ：女子個人 矢野小春 優勝
 - ：三村唯月 2位

全国高等専門学校体育大会

- ・陸上競技
 - ：藤田正勝 800m 7位、1500m 2位
 - ：吉田光太郎 走高跳 1位、三段跳 3位
 - ：大塚隆道 走高跳 6位
 - ：加藤暢 円盤投げ 1 3位、やり投げ 1 5位
 - ：大和田倫太郎 走幅跳 1 9位
- ・水泳競技
 - ：河内嵐至 50m 自由形 1 4位

- : 梅内星弥 800m自由形 1 2 位、200m平泳ぎ 1 3 位
- : 大竹亜門 100m 平泳ぎ 1 9 位、200m 平及び 1 5 位
- : 高野広乃 100m背泳ぎ 1 2 位
- ・硬式野球競技 : 3 位入賞
- ・バレーボール競技 : 予選敗退
- ・サッカー競技 : 1 回戦敗退
- ・卓球競技 : 予選敗退
- ・バドミントン競技 : 初戦敗退
- ・柔道競技 : 初戦敗退
- ・剣道競技 : 初戦敗退

全国高等専門学校弓道大会

- 弓道部 : 男子団体 予選敗退
- 女子団体 予選敗退
- 男子個人 敗退
- 女子個人 敗退

■文化部系

全国高等専門学校弓道大会

- ・将棋部 : 予選敗退

ジュイジョンラック・スナントー 日本銅学会第 63 回講演大会 学生優秀発表賞

松田望来 本分析化学会第 72 年会若手ポスター講演 優秀発表賞

河村泰樹 第 9 回関東磐越地区技術フォーラムの口頭発表優秀発表賞

田野口和将、外之内祥大、中山大生、平尾健人、鹿志村快音、坂本駿太

SEMICON Japan2023 THE 高専プレゼン大会第 1 位

郡司耕輔、米倉観 高専生向けハッカソン Kcloud 優秀賞 (2 位相当)

大伏正泰 国際的ハッカソン ETHGlobal Tokyo Paragon Prize

饗庭陽月 経済産業省情報処理推進機構 未踏 IT 人材発掘・育成事業スパークリエイターに認定

理事長表彰

- ・ 1 A I インタウォン・カモンパット
(査読付き学会誌(JP Journal of Geometry and Topology)に筆頭著者として論文掲載)

以下大会において大会の運営を行った。

関東信越地区高等専門学校体育大会

- ・剣道競技 : 6 月 2 5 日 (日) @本校第 1 体育館
- ・ソフトテニス競技 : 7 月 8 日 (土) ~ 9 日 (日) @ひたちなか市総合運動公園テニスコート

全国高等専門学校体育大会

- ・卓球競技 : 8 月 1 9 日 (土) ~ 2 0 日 (日) @ひたちなか市総合運動公園総合体育館
- ・バレーボール競技 : 8 月 2 6 日 (土) ~ 2 7 日 (日) @ひたちなか市総合運動公園総合体育館

② 学費に関すること

奨学金、授業料免除および就学支援金に関する情報は校内掲示板、HP 掲載、保護者への文書通知等により情報提供を行った。

- ・奨学金一覧 (○) は受給実績あり
 - ・日本学生支援機構 貸与型 (○)
 - ・日本学生支援機構 給付型 (○)
 - ・若築建設奨学金 (○)
 - ・岸川光男記念奨学基金 (○)
 - ・中川育英会奨学金 (○)
 - ・朝鮮奨学会 (○)
 - ・天野工業奨学金 (○)
 - ・オリエンタルモーター奨学財団奨学金 (○)
 - ・川村育英会(○)
 - ・山新育英財団奨学金(○)
 - ・日本国土開発未来研究財団奨学金(○)
 - ・宇野澤奨学会(○)
 - ・水戸市奨学金 (○)
 - ・龍ヶ崎市奨学金 (○)
 - ・ウシオ財団奨学金
 - ・ニコン奨学金
 - ・コマツ奨学金
 - ・富山文化財団奨学金
 - ・あしなが育英会奨学金
 - ・交通遺児育英会奨学金
 - ・アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学生
 - ・関育英奨学会
 - ・本庄国際奨学財団奨学金
 - ・住友電工グループ社会貢献基金
 - ・フソウ育英会奨学金
 - ・ビヨンドトゥモロー奨学金
 - ・茨城県奨学金
 - ・ひたちなか市奨学金
 - ・日立市奨学金
 - ・大洗町奨学金

- ・入学料免除 (減免) : 3名
- ・授業料免除 (減免) 前期 : 全額免除 (減免) 19名 2/3 減免 16名 1/3 減免 3名
- ・授業料免除 (減免) 後期 : 全額免除 (減免) 15名 2/3 減免 14名 1/3 減免 6名
- ・茨城工業高等専門学校修学支援事業基金
前期 0名、 後期 0名
- ・日本学生支援機構奨学生
第1種 9名、 第2種 4名

③ 学生会活動

- ・令和6年度学生会長選出
關 智弘 (機械・制御系3年) 会長選挙投票率34.3%
- ・リーダーズミーティング
- ・学生会と学校長との懇談会
- ・校内レクリエーション

- (バドミントン大会、イントロクイズ大会、障害物リレー大会)
・Rock in NITIC (音楽イベント)

④ イベント

校内体育大会

- ・10月11日(水)

芸術鑑賞会

- ・11月16日(木) 内容: 演劇(行きたい場所をどうぞ)

Rock in NITIC (音楽イベント)

- ・12月16日(土) 第1体育館 メインステージ
第2体育館 サブステージ
タオル、軽食(肉まん)、飲料販売あり

⑤ 学生への安全指導

学生の安全指導に関し、以下セミナーを実施した。

- ・非行防止講演会(1年)
- ・サイバー犯罪防止講演会(2年)
- ・交通安全防止講話(スケアード・ストレイト)(1年・3年)
- ・消費生活講演会(3年)
- ・選挙制度セミナー(4年)
- ・年金セミナー(5年)

ひたちなか市開催「社会を明るくする運動」にて、学生会執行部学生2名が参加(引率: 学生主事補)。
学生主事・主事補で、校外巡回を複数回行った。

⑥ 施設改修

- ・合宿研修所脱衣所 洗濯機、乾燥機購入。
- ・創作活動室、武道場 エアコン購入。
- ・茨友会館1階の電子レンジ買い替え。
- ・第1体育館ライン貼り替え。
- ・弓道場北側防矢ネット修理。

⑦ 預り金

- ・預り金規則に基づき、4団体が前年度から使用継続し、うち1団体が11月末で運用停止した。
- ・2団体が使用開始し、その2団体が3月末で運用停止した。

⑧ 懲戒処分を伴う学生の問題行動への対応

- ・バイク無許可通学者1名(校外に無断駐車)
…学生主事から、保護者立ち合いのもと厳重注意

⑨ 規則制定、改正及び廃止

- ・茨城工業高等専門学校奨学金規則 制定
- ・ジーオーピー株式会社奨学金申合せ 制定
- ・学生の通学に伴う車・バイク使用に関する措置要項 改正

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 新型コロナウイルス感染症に伴う活動制限を撤廃したことにより、学生会や部・同好会等の課外活動が活発化した。各団体で多くのイベント開催の企画が挙がってきたため、物品の貸出や施設使用の相談等、サポートを行った。
- ② 教育の機会の平等という観点から、意欲・能力のある学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、経済的に困窮している世帯の教育費負担の軽減を図る奨学金等の積極的利用を呼びかけた。
- ③ 新型コロナウイルス感染症の影響で、茨香祭(対面)の経験が1回少ない5年生のために、学生会が学内で音楽フェス(Rock in NITIC)を企画した。実行委員会は、検便や保健所への届出を行い、飲食の販売を行った。事前に実行委員会が飲食の販売を経験することによって、次年度茨香祭で、調理を含むサークル出店再開に伴う手続きのフォローとなった。
- ④ 芸術鑑賞会では、演劇公演後、座談会を開催した。約30名の学生が参加し、質疑応答や感想等、活発な発言があり有意義な時間であった。
- ⑤ ほぼすべてのセミナーを対面で開催することが出来た。講師、学生ともに対面で実施することにより、学生の反応が良いことが実感できた。質疑応答についても、オンラインより多くの発言がり、学生の意識改善につながった。
- ⑥ 預かり金の取扱いについて、適切な会計処理と円滑な運用を進めた。
- ⑦ 学生委員会にて、学生の懲戒について審議し、再発防止に向けた指導を行った。今回が懲戒処分の規則制定後初の案件のため、規則の見直しや報告書フォーマット作成等を検討することとした。
- ⑧ 寄付金による茨城高専独自の奨学金制度運用のため、規則等を制定した。成績上位学生へ奨学金を支給することにより、学生の勉学意欲の向上につながった。
- ⑨ 電動キックボードの法改正に伴い、車・バイクの措置要項を改正した。

(3) 今後の展開

部・同好会の高専大会遠征費補助について、後援会との協議を継続し、業務改善をしていく。また、顧問教員制度についても、新しい運用を目指して取り組みを行う。

5. 寮生支援（寮務委員会）

（1）取組実績

①寮生数について

年度当初寮生数	216人	入居率 86.1% (92.7%)
年度途中入寮者	5人	
年度途中退寮者	15人	
年度末寮生数	159人	入居率 82.1% (86.6%) (卒寮生及び年度末退寮生を含む)

3年生までを基本とした学寮であるが、空室がある場合は、入寮更新を希望する新4.5年生のうち、自宅からの距離、リーダーシップ、素行、成績を鑑みて順位付けを行い、指導寮生（補助）として入寮更新を認めている。

新型コロナウイルス感染症対策のため、二人部屋については一人のみの入居とし、入居率については、それぞれ、従来の定員での入居率（86.1%→82.1%）と二人部屋を一人部屋にした場合の入居率（92.7%→86.6%）を表している。

②二人部屋の解消

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、新友館の二人部屋を一人で使用する事とした。

③寮生保護者向けのメール配信システム（マチコミ）の継続運用

寮生保護者向けの連絡手段とした構築したメール配信システム（マチコミ）を継続運用し、寮生保護者会総会や同臨時総会の開催、保護者への各種照会、意向確認等において活用した。

④寮内設備の充実化

令和5年度における対応は以下のとおりである。

- ・北友館の3階部分を男子の居室とする運用を続けてきたが、令和6年度の新型コロナウイルス感染症明けの運用を見据え、北友館の全館を女子の居室とすることとした。
- ・西友館、新友館の防犯カメラを更新した。
- ・北友館の冷蔵庫2台を更新した。

⑤寮食堂について

老朽化している厨房機器類を更新した。

また、新型コロナウイルス感染症が5月に感染症法上の5類に変更されたことに伴い、感染拡大防止対策飛沫防止パネルを撤去した。なお、寮生数の増加に伴い食堂のスペース

が限られることから、昼食時間を前半と後半に分ける入替制は継続した。

⑥宿日直業務について

宿日直業務の一部外部委託を継続し、教員の負担軽減を図った。

11月より、男子寮生についても第2点呼後の集合点呼形式とし（女子寮生は従来より実施）、教員が当直の際は全体指導を行った。

⑦避難訓練について

春に火災、秋に地震を想定した避難訓練を実施した。

⑧寮務委員会

第1回 令和5年4月11日（月）

1. 学生問題行動に関する審議について
2. 学寮防犯カメラ運用申合せの一部改正について

第2回 令和5年6月27日（火）

1. 令和4年度寮費決算（案）について
2. 令和5年度寮費予算（案）について
3. 茨城工業高等専門学校学寮共通経費に関する申合せの一部改正について
4. いじめ調査について

第3回 令和5年10月2日（月）

1. 学生問題行動に関する審議について

第4回 令和5年10月27日（金）

1. 学生問題行動に関する審議について

第5回 令和5年10月31日（火）

1. 学生問題行動に関する審議について

第6回 令和6年1月29日（月）

1. 寮生の問題行動に対する指導（違反ポイント制）に関する申合せの改正について

第7回 令和6年3月14日（木）

1. 茨城工業高等専門学校寮務委員会規則の一部改正について
2. 茨城工業高等専門学校寄宿舎規則の一部改正について

3. 令和6年度学寮運営方針について

4. その他

⑨学寮行事

期日	内容
令和5年4月4日(火)	開寮、新入寮生オリエンテーション
令和5年4月20日(木)	学寮避難訓練(火災)
令和5年4月28日(金)	簡易閉寮
令和5年5月7日(日)	開寮
令和5年5月17日(水)	寮生総会(寮生会予算・決算)
令和5年6月14日(水)	非常時の在寮確認訓練(暴風雨時点呼)
令和5年6月18日(日)	新入寮生歓迎会
令和5年7月6日(木)	寮生保護者会総会(マチコミメールを使用)
令和5年8月11日(金)	閉寮
令和5年9月18日(月)	開寮、一部寮生部屋替え
令和5年9月23日(土)	学校説明・見学会(学寮説明会)
令和5年10月21日(土)	寮祭(BBQ、ビンゴ大会)
令和5年10月25日(水)	学寮避難訓練(地震)
令和5年12月14日(木)	学寮建物等の美化作業
令和5年12月22日(金)	閉寮
令和6年1月4日(木)	開寮
令和6年2月7日(水)	卒寮生追い出し会
令和6年2月9日(金)	退寮日、部屋替え
令和6年2月20日(火)	閉寮
令和6年2月28日(水)	新1年生の入寮面接

⑩規則等の改正等

- ・「茨城工業高等専門学校寄宿舎規則」の一部改正
- ・「茨城工業高等専門学校寮務委員会規則」の一部改正
- ・「寮生の問題行動に対する指導(違反ポイント制)に関する申合せ」の一部改正
- ・「茨城工業高等専門学校寄宿舎学寮防犯カメラ運用申合せ」の一部改正

⑪寮生の体調管理

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に関する方針を継続し、以下のとおり実施した。

- ・開寮時は1週間前から平熱が続いていることを条件に入寮を許可した。
- ・寮生が体調不良になった場合は、発熱の目安を37.5度以上とし、風邪に似た症状がある

場合には速やかに保護者に連絡をとって帰宅するよう指導した。

⑫寮生保護者役員会について

令和6年2月23日（金）に寮生保護者役員会を開催し、以下について承認を得た。

- ・令和6年度以降の寮費の取扱いについて、寮費の収支状況に鑑み、場合によっては寮費の徴収をしない月を設ける運用を行うこと。
- ・虹友館以外の居室のエアコン（備品含む・191台分）につき、10年契約のリース期間が令和6年9月30日で満了になることに伴い、更新の手続きを行うこと。
- ・寮内の共有スペースにある洗濯機について、寮生の利便性向上に資するため、備品をリース契約に切り替えていく方向で進めていくこと。

（2）自己評価（改善含む）及び課題

- ① 新型コロナウイルス感染症が5月に感染症法上の5類に変更されたことに伴い、男子寮生の集合点呼の再開や、寮祭におけるバーベキューの復活等、寮生同士の交流を促す施策を実施した。引き続き、感染症の状況を考慮しながらではあるが、寮生・教職員同士のコミュニケーションの促進をはかりたい。
- ② 他者との共同生活に難がある寮生の対応や、寮のルールを守らず違反を繰り返し、秩序を乱す寮生に対する指導など、個別対応が必要な事案は多い。保護者や担任、学生健康センターなど、関係者との連携がより重要となっている状況である。
- ③ 違反を繰り返す寮生の対応、また昨今の情報公開の重要性が増した時勢に鑑み、寮の内規である違反ポイント制度を公開した。今後は、違反ポイント制の運用と寮生・保護者への正しい周知が課題である。

（3）今後の展開

新型コロナウイルス感染症の指定が変更されたとはいえ、共同生活の運営上、予断は許されない状況が続いている。ただし、このような状況にあっても、寮生の寮での生活・経験を充実させるため、コロナ禍前の寮生イベントの復活、ひいては新しいかたちでのアップデートが必要である。教職員として寮生を指導・サポートし、積極的な寮生同士の交流を促していきたい。

6. 広報活動（広報室及び広報委員会）

（1）取組実績

広報活動については、学生、保護者、職員、卒業生及びその他関係機関並びに地域社会に対し本校を正しく認識してもらうことを目的として、広報室及び広報委員会において立案の上、次の活動を行った。

①ホームページの切替及び情報発信

ホームページについては、広報活動の最重要な手段と捉えている。

7月にホームページの切替を行い、フルリニューアルした。

広報室が随時ホームページで紹介する本校の各種行事や学生・教職員の活動について、高専機構本部ホームページの「お知らせ」への掲載申請を行った。

②「学校要覧」の刊行

「令和5年度版 学校要覧」について、前年度版のデータ更新を行い、1,000部刊行した。主に求人企業、地域連携機関、入試広報及び来客者等に配布し案内を行った。

③「キャンパスガイド」の刊行

「キャンパスガイド2024」について、前年度版のデータ更新を行い、7月に6,000部刊行、3月に1,500部増刷した。

学校説明会等で中学生及び保護者へ、中学校訪問時に中学校教諭に配布し案内を行った。

また、令和5年度については、「茨城高専アソビサイエンス」(*)を開催したため、当該イベント会場においても配付を行った。

※ 高専スタートアップ教育環境整備事業の一環として以下のとおり開催。

本校60周年記念事業としても実施。

令和5年9月 9日（土）、10日（日） イーアスつくば

令和6年2月17日（土）、18日（日） イオンモール水戸内原

令和6年3月20日（水・祝）、21日（木） イーアスつくば

④令和5年度おもしろ科学セミナーの開催

小学生に理科の楽しさを体験してもらうことを目的として、令和5年度おもしろ科学セミナーを開催した。コロナ禍のため中止やオンライン開催を余儀なくされていたが、今年度は令和元年度以来の対面開催で実施した。

おもしろ科学セミナー当日は192名が受講した。

講座番号	テーマ名	受講者数
1-A	【午前の部】紙コップロボットを作ろう	24
1-B	【午後の部】紙コップロボットを作ろう	22
2	キラキラな結晶を作ろう	15
3	電池がなくても聞こえる！ラジオを作ろう！	19
4-A	【午前の部】 しゅみレータで世界をコンピュータの中に	16
4-B	【午後の部】 しゅみレータで世界をコンピュータの中に	11
5-A	【午前の部】 あれも化学！これも化学！やってトライ夏休み自由研究 2023	41
5-B	【午後の部】 あれも化学！これも化学！やってトライ夏休み自由研究 2023	29
6	作って楽しい！見て感動！立体万華鏡！	15

※応募者多数のため、対応可能な講座については、受入人数を増員した。

④「高専だより」の刊行

「高専だより」は、本校の活動内容等を案内することを目的として学生及び保護者向けに、従来は印刷により、令和3年度からは本校ホームページ上で公開していたが、活動内容等の情報発信については、逐次、ホームページで行うようになったため、今年度も昨年度同様、校長、新入生、卒業生、新任教員、退職教員の各挨拶を掲載した。

⑤公開講座の開催

本校では、学校広報、社会貢献の一環として、中学・高校生、一般市民を対象に公開講座を開講している。

令和5年度については、公開講座に関する方針の再検討が行われたため、開講した講座は2講座にとどまった。

講座の名称	受講定員	受講者数
紙コップロボットを作ろう	20	8
もの作り LED 工作入門 (オンライン)	20	15
計	40	23

⑥広報委員会

1)第1回

日時：令和5年5月30日（火）

- 議題： 1. 広報室について
2. 令和5年度年度計画について
3. 令和5年度おもしろ科学セミナー（案）について
4. 令和5年度学校要覧の編集について
5. 令和5年度公開講座について
6. 令和5年度高専だよりについて
7. 「茨城高専キャンパスガイド2024」の編集について
8. その他
 ホームページの更新について

2)第2回

日時：令和5年6月27日（火）

- 議題： 1. 令和5年度おもしろ科学セミナーチラシ（案）について
2. HP更新について
3. 「茨城高専キャンパスガイド2024」の編集について
4. その他

3)第3回

日時：令和5年8月7日（月）

- 議題： 1. おもしろ科学セミナー2023について
2. 公開講座に関する今後の方針について
3. ホームページのリニューアルについて
4. その他

4)第4回

日時：令和6年1月10日（水）

- 議題： 1. おもしろ科学セミナー2023 アンケート集計結果について
2. おもしろ科学セミナー2024開催について
3. 令和6年度公開講座の募集について
4. 令和6年3月『高専だより』について
5. HPにおける研究室ページ等の取扱いについて
6. その他

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 本校教職員や学生の活動について、広報室の方針の下で、引き続きホームページ上で積極的に情報発信を行っていく。
- ② 「学校要覧」及び「キャンパスガイド」については、学内の広報関係スケジュールを考慮し、6月下旬から7月初旬を目途に刊行できるよう進めていく。
- ③ 「高専だより」については、引き続きホームページへ掲載する形での発行を継続し、経費削減の一助とする。
- ④ 「おもしろ科学セミナー」は3年ぶりの対面開催であったが、計画どおり実施できた。セミナーは好評であり、受講者アンケートでは約98%が「とてもおもしろかった」（約85%）「まあまあおもしろかった」（約13%）旨の回答であった。
- ⑤ 公開講座については、公開講座に関する方針の再検討が行われたため、開講した講座は2講座にとどまったが、次年度以降は新方針の下、積極的な開講を推進していく。

(3) 今後の展開

独立行政法人の予算が年々削減される中で、経済的かつ効果的な広報の方法の検討が必要となってくる。学内の組織体制変更に伴い、広報室は令和6年度から新たに広報戦略室となるため、広報戦略室立案の方針の下で、各コンテンツの充実を図りながら積極的な情報発信を行っていく。

7. 学生健康支援（学生健康センター）

（1）取組実績

約3年間にわたる「新型コロナ感染症」感染防止対策の対応により広範囲な見直しが行なわれ、より良く合理的な学生対応となった。心身の健康維持及び向上を図るとともに、健全な学生生活を送る援助を行うことを目的として、次の活動を行った。

- ① 学生のメンタルヘルスに関する取り組みを行った。
 - ア. 「デートDV」予防教育セミナー：1年生（対面）
 - イ. メンタルヘルス講演会：3年生（対面）
 - ウ. 「相談室だより」の発行（HP掲載）
- ② 教職員が関連するセミナーの開催及び研修会等へ参加し支援体制の充実を図った。
 - ア. 「発達障害支援セミナー」の開催（対面）
 - イ. 「聴覚障害学生の理解と支援セミナー」の開催：講師（県立聾学校）
 - ウ. 「自殺防止セミナー」の開催
 - エ. 「エピペン講習会」の開催
 - オ. 第20回全国国立高専学生支援担当教職員研修会：参加
（校長、学生主事、センター長、看護師）
 - カ. 令和5年度心の問題と成長支援ワークショップ（JASSO）：欠席
 - キ. 令和5年度障害学生支援実務者育成研修会参加（基礎プログラム）：欠席
 - ク. 第61回全国学生相談研修会：参加
 - ケ. 第31回グリーンケア・アドバイザー2級認定講座：参加
 - コ. 茨城県内大学及び高等専門学校保健管理担当者情報交換会：参加
- ③ 献血を実施した
- ④ 学校環境衛生検査（学校プール水水質検査、照度検査、空気検査）を実施した
- ⑤ 「こころと体の健康調査」（自殺予防のためのチェックリスト）WEBによるアンケート調査を実施した。
- ⑥ 学生定期健康診断を実施した。
- ⑦ 「学生総合補償プラン」（任意保険）の募集を行った。
- ⑧ 「日本スポーツ振興センター」の災害給付金の請求事務を行った。
- ⑨ 高専地区体育大会及び全国大会、学内行事等の救護業務を行った。
- ⑩ 怪我や急病人の対応（応急処置、医療機関付き添い、健康相談、医療機関紹介等）
- ⑪ 学生相談室のインターカー業務を行った。
- ⑫ 「特別支援教育室」における業務補助を行った。
- ⑬ 学生健康センター内打ち合わせを実施した。
- ⑭ 新型コロナ感染症対策がインフルエンザと同様の扱いとなった
 - ア. 来室時の呼び出しインターフォンの利用

- イ. 体調不良者用の休養室の整備
- ウ. サーモ体温測定機の利用
- エ. 非接触型自動消毒機の利用
- オ. 傷病者対応フローの見直し

- ⑮ 学生健康センターホームページの更新
- ⑯ 新入生「健康管理調査書」の有効活用を図る
- ⑰ 救急体制の充実（AED 車椅子）

（２）自己評価（改善含む）及び課題

- ① コロナ禍においてオンラインで実施していたセミナー、講演会を対面式に戻した事により、実施後のアンケート調査においても学生の理解が深められたことを確認した。今後も学校生活をより健全に送れるよう情報発信し学生相談室を身近に感じてもらえるよう努める。
- ② 各種セミナー講演会を対面での実施としたことにより、より多くの情報を理解する事に繋がった。
- ③ 献血のリーフレット配布、ポスター掲示を事前に行い周知徹底に努め実施した事で、献血の重要性の理解に繋がり、より多くの協力を得る事が出来た
- ④ 学校薬剤師により実施し基準値内であり良好な環境である事を確認した。
- ⑤ WEB形式によるアンケート調査を実施し調査結果の集計作業を迅速に進め「高判定」の学生の速やかな面談を行った。担任とカウンセラーによる情報共有を図った。発達特性を持つ学生の支援体制についても「特別支援教育室」と連携し早期に情報共有し支援チーム立ち上げに繋がった。
- ⑥ コロナ禍で見直した実施方法を引き続き行い合理的な健診により受診率の向上に繋がった。
- ⑦ 安心して学生生活を送れるよう加入を推奨した。
- ⑧ 学校管理下内の怪我に対する給付金の請求方法の見直しを行う事により請求漏れが無くスムーズな対応となった。
- ⑨ 感染予防対策、熱中症対策に努め救護活動を行った
- ⑩ 不意に起こる怪我や急病に迅速且つ最善の対応ができるよう「傷病時対応マニュアル」を作成し関係者間との情報共有を行った。
- ⑪ 来室初期に体調不良の訴えにより休養する学生に対しスクリーナーを行い、メンタルの問題を抱える学生に対しては、相談室と連携しゲートキーパーとしての役割を果たせるよう努めた。また、センター長を中心にカウンセラー、関係教員、センター内スタッフにより適時適切な情報共有を行いチームとしての対応に繋がった。
- ⑫ 「特別支援教育室規則」により専任カウンセラーを中心に連携に努め業務補助を行った。
- ⑬ 合理的でより良い支援を行うために、定期的打ち合わせを行い、また初動が遅れぬよう随時速やかに課題の解決に取り組んだ。
- ⑭ 引き続き感染症予防対策に努めた。

- ⑮ 学生健康センターを気軽に利用出来るよう必要な情報を簡潔明瞭に掲載する等随時 HP の更新を行った。
- ⑯ 「健康管理調査書」の情報共有を行い入学後の速やかな対応に繋げた。
- ⑰ 車椅子、AED 設置における救急体制の充実の継続

(3) 今後の展開

学生健康センターとして、引き続き感染症予防対策に努め学生が不安なく、充実した学生生活を送れるよう環境づくりに努める。また、学校生活において様々な環境の変化や、近年留学生や県外（遠方）からの入学者数も増えており、高専生活に順応出来るよう、より細やかな支援が必要と考えられる。特にメンタル不調を抱える学生に早期に気づき適切な対応を行える体制づくりを強化し関係教職員、外部機関との連携を密に行い速やかな情報共有を行えるよう努める。

8. 図書館運営（学術総合情報センター）

（1）取組実績

本校図書館は和書・洋書あわせて約9万冊の蔵書があり開架式となっている。コンピュータを用いた図書データベース・電子ジャーナルの検索も充実しており、学生・教職員の学習や調査研究の支援を行っている。

理工系専門図書のほか、文学・哲学などの書籍も多数所蔵している。加えて、平成24年度からは電子書籍を導入し、新しいサービスの提供を開始しコレクションを拡大している。

また、開館時間の延長・土曜日開館を実施することにより利用の拡大を図っている。開かれた図書館として地域市民に閲覧・貸出を行い、地域への貢献を推進している。

① 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施した図書館開館

■ 日本図書館協会の「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」や他高専図書館、大学図書館、近隣公共図書館の開館状況を参考に本校図書館における対策を実施して図書館を開館した。

- 令和2年4月1日から引き続き一般利用者開放の休止（ホームページで案内）
- 貸出資料返却時のブックポスト（玄関前に有り）利用の推進
- 図書館サービスカウンターの飛沫防止対策の設置
- 入館の際は、入口でのアルコール消毒の徹底
- 貸出希望図書をEメールで予約の上、図書館窓口で貸出受取りを実施

② 行事实施

1) 図書館ガイダンスの実施

* 新入生対象（クラス単位で説明会を実施）

日 時：令和5年4月17日（月）、19日（水）、20日（木）、21日（金）

場 所：視聴覚教室、クラス教室、図書館閲覧室

* 新入留学生対象

留学生向け図書館利用ガイドを作成して個別に説明した。

2) ブックハンティングの実施（学生図書委員会）

期 間：令和5年5月25日（木）～令和5年6月22日（木）

クラスごとに希望図書を募り、リストを図書館へ提出。

合計100冊の図書を購入した。（経費：後援会費）

3) 図書館カフェの開催

（図書館では、知的情報の拠点を目指すことを活動計画の一つとして挙げており、例年秋季に本校教員の研究に関連したテーマで講演会を開催）

⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した。

4) 第6回ビブリオバトルの開催

(例年秋季に文章やイラストで推薦本を紹介する本校独自の書評合戦を開催)

募集期間：令和5年9月19日(火)～10月27日(金)

応募総数：15件

投票期間：令和5年11月2日(木)～11月30日(木)

受賞者決定：令和5年12月5日(火)

表彰式：令和5年12月14日(木)12時40分～(場所：視聴覚教室)

受賞	所属	氏名	書名	作者	おすすめポイント
特別大賞	3M2	市村 杏介	恋する寄生虫	三秋 縫	お前らには一生無縁な恋模様
特別優秀賞	4I	小池 湧人	ペンギンが教えてくれたこと	キャメロンブルーム他	人間と鳥の愛情深い絆
	5E	小林 海翔	走れメロス	太宰 治	友情を超えた信頼関係
優秀賞	4E	萩谷 明日菜	I (アイ)	西 加奈子	今読んでほしい力強いメッセージ
	3E	熊谷 幸菜	檸檬	梶井基次郎	頭の狂い様
	5E	酒井 優真	横浜駅 SF	柞刈 湯葉	親近感が湧く SF
	5E	角 咲都	猿蟹合戦	芥川龍之介	皮肉の効いたストーリー

③企画展示の実施

1) 「ブックハンティング図書」の展示(経費：後援会費)

展示物：学生からのリクエスト図書

2) 「教員推薦図書」の展示(経費：後援会費)

展示物：先生方より推薦された専門図書・参考書等

3) 各賞受賞作品の展示

展示物：2024年本屋大賞受賞作品、第169回・170回 芥川賞・直木賞作品

4) 「第7回ビブリオバトル入賞作品図書」の展示

展示物：第7回ビブリオバトル受賞作品

展示期間：令和5年12月8日(金)～

④図書館環境整備

1) 入口モニターの活用

図書館イベント案内や図書館利用の方法、新着図書のお知らせなどこまめに更新し、ホームページと併せて利用者の図書館活用に役立てた。

2) 図書館ホームページの更新

これまで個別PCで開設していた図書館のホームページを本校ホームページ内に改修構

築した。スマートフォンでも見やすくなり、図書館 WEB サイト活用による効果的な情報発信が可能となった。

⑤各種図書コーナーの配置

1) 新着図書コーナー

毎月の継続図書や新着図書を配架。今年度は、学生のリクエスト図書や専門書の購入を積極的に行った。

2) 英語試験コーナー

TOEIC、技術英検のテキストや英検、TOEFL、IELTS、GTEC の参考書を展示。英語の論文作成やプレゼンテーションに役立つ図書を展示。

3) 新書コーナー

岩波ジュニア、岩波、ブルーバックス吉川弘文館の歴史ライブラリー他、文庫シリーズ多数有り。

4) シラバスコーナー

その年のシラバスに合わせて毎年見直しを行い、テキストを整備し学年別に配架。

5) 大学編入学対策コーナー

6) 進路資格コーナー

資格取得に役立つテキストや参考書、試験問題過去問集等を充実させた。

7) 就活コーナー（4年度新設）

就活に役立つ産業界研究参考図書や適性検査、面接対策図書等を充実させた。

8) F E 受験コーナー

F E 試験（Fundamentals of Engineering Exam）対策の参考書・問題集を配架

9) 本校教員著書コーナー

10) メンタルヘルスコーナー

11) 文芸部「地雷」コーナー

文芸部誌『地雷』を配架し、活動を応援。

12) 留学生コーナー

留学生におすすめの図書を配架。タイ留学生を対象にした英語、タイ語の書籍を整備。

13) グローバルコーナー

グローバル関連の図書、国連関連図書に加え、国際連合広報センター発行の広報誌『Dateline UN』国際協力機構広報誌『mundi』を置き、タイムリーな国際情勢を紹介。

⑥令和5年度整備図書資料

1) ブックハンティング図書 129 冊（後援会より寄贈）

学生図書委員が中心となりクラスごとに選書リストを提出、夏季休業前に購入した。自分たちで選んだ本ということで利用率が高く多数貸出された。

2) 就活図書 51 冊（後援会より寄贈）

企業研究、試験対策、面接対策等、就職活動に役立つ図書を購入した。

新コーナーに展示し多数貸出された。

3) 教員推薦図書 90 冊 (後援会より寄贈)

教員から推薦された、学習、レポートに役立つ専門書・参考書、その他お勧めの図書などを購入した。

4) シラバス図書 32 冊 (後援会より寄贈)

今年度のシラバスに掲載の図書を購入し、学年ごとに配架した。

5) 留学生用図書 196 冊 (予算：日本型高専教育制度の海外展開に向けた体制整備)

ゼミ室での日本語教育や多読活動、留学生との交流に利用された。

6) 専門書 362 冊 (後援会より寄贈)

新出題形式対応 TOEIC、技術英検等、資格取得図書を多数購入した。

専門書は新着展示として入口直ぐのカウンター前書架に配架し多数貸出された。

7) 各賞受賞作品 8 冊 (後援会より寄贈)

芥川賞・直木賞、本屋大賞受賞作品を購入、展示コーナーを作成した。

8) 教員著書 1 冊 (本校 OB 著書 6 冊寄贈あり。)

茨城高専の教員の著書コーナーへ展示した。

⑦蔵書構成等（令和5年度）

1) 図書

分類	和書	洋書	計
総記	3,840	280	4,120
哲学・宗教	4,023	903	4,926
歴史・地理	6,398	242	6,640
社会科学	6,552	309	6,861
自然科学	15,141	2,764	17,905
技術工学	14,448	1,769	16,217
産業	787	17	804
芸術	4,379	107	4,486
言語	6,203	3,233	9,436
文学	18,399	1,458	19,857
計	80,170	11,082	91,252

2) 電子書籍

和書	洋書	計
46	133	179

3) 雑誌

和雑誌	洋雑誌	計
285	127	412

4) 定期購読

- ・国内雑誌：43誌（うち後援会寄贈雑誌24誌）
- ・新聞：5誌（茨城新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、日刊工業新聞）

⑧研究支援活動

1) I L L利用状況

- ・外部図書館からの貸借受付：12件
- ・外部図書館への貸借依頼：43件
- ・I L Lシステム以外の公立図書館との相互貸借：5件

2) 電子ジャーナル利用

電子ジャーナル名	契約形態
Science Direct (Elsevier 社)	高専コンソーシアム
A I P Publishing (American Institute of Physics)	高専コンソーシアム
A P S Physical Review Journals (American Physical Society)	高専コンソーシアム
ScienceOnline (America Association for the Advancement of Science)	高専コンソーシアム
Springer Link (Springer・Nature 社) 高専向けパッケージ	本校個別契約

3) 文献検索データベース利用

データベース名	契約形態
JDreamⅢ (科学技術振興機構)	高専コンソーシアム
MathSciNet (AMS : American Mathematical Society)	高専コンソーシアム
朝日けんさくくん (朝日新聞データベース)	本校個別契約

⑨図書館開館状況、入館者数、貸出冊数 (令和5年度)

* 正規の時間内開館： 平日の午前8時30分～午後7時

* 時間外開館 土・日曜開館： 午前10時～午後5時

1) 開館状況(月別開館日数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	20	20	22	21	21	19	22	20	18	18	19	20	240
時間外(夜間)	16	18	21	21	9	9	22	20	16	15	6	0	173
時間外(土曜日)	3	3	3	5	1	2	4	4	3	4	1	0	33
時間外(祝・日曜日)	0	1	1	2	0	0	0	2	0	2	0	0	8
合計(正規+土・日)	23	24	26	28	22	21	26	26	21	24	20	20	281

2) 入館者数(入館者カウント装置から算出)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
正規時間	3,578	3,415	3,495	4,552	2,666	2,081	
時間外(夜間)	594	888	562	1,093	263	257	
時間外(土曜日)	126	305	127	419	18	117	
時間外(祝・日曜日)	0	88	98	291	0	0	
合計	4,298	4,696	4,282	6,355	2,947	2,455	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	3,855	3,954	2,488	4,432	1,853	1164	37,533
時間外(夜間)	957	737	449	766	140	0	6,706
時間外(土曜日)	285	282	128	400	28	0	2,235
時間外(祝・日曜日)	0	329	0	313	0	0	1,119
合計	5,097	5,302	3,065	5,911	2,021	1164	47,953

* 入館者カウント装置から算出

3) 一般利用者入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

* 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和4年度は一般開放を休止した。

4) 利用者区別貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	235	134	90	31	41	43	58	73	80	42	36	8	871
2年生	32	11	24	13	39	21	65	33	52	33	30	3	356
3年生	19	12	18	4	40	14	30	32	45	32	33	15	294
4年生	165	126	145	72	140	120	190	169	209	100	188	76	1,700
5年生	256	190	171	129	125	106	134	89	61	53	44	8	1,366
専攻科	21	19	16	42	32	18	33	22	12	18	42	10	285
教員	31	15	25	21	25	19	21	23	14	10	27	20	251
職員	533	525	498	861	116	213	521	181	265	220	95	63	4,091
非常勤講師	0	5	1	0	0	3	2	3	4	0	4	0	22
一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1292	1037	988	1173	558	557	1054	625	742	508	499	203	9,236

*I-Liswave-J 利用者区分月別冊数・人数統計から算出

⑪会議等の開催

1) 高等専門学校及び技術科学大学図書館情報交流集会

企画：富士通 JAPAN による「新・統合図書館システム」操作説明等

時期：令和5年8月22日（火）～9月1日（金）までの間

実施形態等：ブロック単位で開催。別途照会・調整の上、日程決定。

実施後の動画配信も検討中。

2) 第23回関東信越地区高等専門学校図書館協議会

開催当番校：長野工業高等専門学校

日時：令和5年11月13日（月）11:00～

場所：中会議室（Teams オンライン）

出席者：大津 麻紀子（副学術総合情報センター長）、木村 保（学生課図書・情報係長）、
関 幸子（図書館司書）

会議内容：各高专からの取組近況報告等の情報交換

研修会（14:00～）：「学校図書館における著作権」（講師：原口 直氏）

3) 長岡技術科学大学・国立高等専門学校図書館情報交換会

日時：令和6年3月12日（火）13:30～15:30

開催形式：オンライン（Zoom）出席者：図書館担当者

1. 学術情報流通活性化事業について（長岡技術科学大学図書館）

2. 学術情報流通に係る最近の動向（長岡技術科学大学図書館）
3. ScienceDirect Read&Publish 提案について（エルゼビア・ジャパン(株)）
4. 事前アンケートの結果について（長岡技術科学大学図書館）
5. AIP/APS のバックファイルデータの提供方法について（協議）

（2）自己評価（改善含む）及び課題

- ① 令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を実施し、閲覧室の座席を通常配置に戻して開館した。一般利用者への開放は継続停止した。
- ② 時間外開館（19時まで）、土曜日開館、期末試験期間中の日曜開館を再開した。
- ③ 研究支援活動や図書の予約貸出しサービス等を実施するなど、図書館の利用環境を保持できるよう取り組んだ。
- ④ 令和5年度からは、学生からの要望に応じて、年間4回の定期試験期間の1週間前の日曜日も開館した。
- ⑤ ブックハンティングや企画展示を実施し、また、各種コーナーの図書を充実させ、更に利用者が増えるよう、図書館利用者の興味をひく取組を推進していく。
- ⑥ 電子ジャーナルの利用料金が年々値上げされていくなか、年々削減される図書館運営経費から必要経費を捻出し、図書館活動の向上と教育・研究情報サービス機能の強化・推進を図る。
- ⑦ これまで個別PCで開設していた図書館のホームページを本校ホームページ内に改修構築した。図書館WEBサイト活用による情報発信や図書館利用サービスを提供するため、サイト内の情報を整理して充実させる。
- ⑧ 図書館管理業務を外部委託契約により実施しているが、今後も継続して実施していく。

（3）今後の展開

- ① 平成30年4月20日、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定され、高校生の読書関心度合いの低下、スマートフォンの普及等による読書環境への影響などの現状から、読書習慣の形成に向けての取組、読書への関心を高める取組、自学自習の環境整備などについて検討していく。
- ② 新型コロナウイルス感染症の5類移行後においても、図書館における感染防止対策を継続して実施し、図書館利用者の感染予防に努める。なお、一般開放を再開する。
- ③ 令和4年度に高専機構本部の調達（長岡技術科学大学との共同調達）により、第4期統合図書館システムへ更新されたが、システムに不具合が発生しているため、登録図書データのチェックなど注意が必要である。

9. 情報化推進（学術総合情報センター・情報セキュリティ管理委員会）

（1）取組実績

情報センター等では、ICT 授業や業務を円滑に行えるような環境整備、PC 等の利用におけるサポート及び情報セキュリティ強化等について、次の活動を行った。

①Microsoft365 メールシステムへの移行

高専機構通知「メールシステムにおける多要素認証の導入のお願いについて（通知）」に基づき、令和5年9月にメールシステムをMicrosoft365へ移行した。

②ソフトウェアライセンス管理

ソフトウェアのライセンス管理を徹底する事を目的として、全教職員に保有しているソフトウェアの調査を実施し、ソフトウェアライセンス管理台帳を作成した。

③ACLの適用

高専機構通知「高専統一ネットワーク更新に係る設定について」に基づき、教職員ネットワークと学生ネットワークを分離することとし、令和5年11月から12月にかけて分離作業を行った。

④情報セキュリティ教育・訓練

情報セキュリティに対する意識の向上を目的として、全学生及び全教職員対象とした、情報セキュリティ教育をe-Learningで実施し、併せて、誓約書の提出を実施した。

また、教職員対象に、標的型メールの対応訓練を実施した。

⑤業務用パソコンのリース契約導入に向けた調査の実施

経費節減の一助とするため、業務用パソコンのリース契約導入を検討し、そのための事前調査として、事務部門における必要台数調査を実施した。

（2）自己評価（改善含む）及び課題

① Microsoft365 メールシステムへの移行により、情報システムサービスへの多要素・多段階認証の導入及びメール誤送信防止システムの導入がより確固としたものとなり、情報セキュリティの強化を図ることが出来た。

② ソフトウェアライセンス管理台帳を作成し、ライセンス管理の徹底を図ることができた。

③ 全教職員及び全学生へ情報セキュリティの誓約書の提出とe-Learningを実施したことにより、情報セキュリティへの意識付け及び注意喚起を図ることが出来た。

(3) 今後の展開

情報セキュリティへの対策は、年々厳しくなっていることから、現在実施している各施策の充実・強化を図りながら、学内のセキュリティ水準や教職員の意識の向上につなげていく。

10. 国際化推進（グローバル教育センター）

（1）取組実績

国際化推進については、グローバル教育センター会議で立案し、海外学生派遣・受入、筑波大学連携事業、留学生受入及びグローバルエンジニア育成事業などの取り組みについて、各所掌において着実に実行に移した。

①筑波大学連携事業 Global PBL

令和5年8月23日（水）から8月29日（火）の5日間（土日を除く）、筑波大学大学院の外国人留学生をティーチングアシスタントに夏季集中講義：Global PBLをオンラインで実施した。今年度のテーマは“Global Problem Based Learning (PBL) Summer Intensive Course 2023 Ocean Plastic Pollution: Marine debris”で、21人の学生が受講した。

②留学生（正課生）の受入

本科1年次に女子2名（タイ）、本科3年次に男子3名、女子2名（マレーシア、ラオス、インド、ベナン）の計5名の留学生を新たに受け入れた。

③タイ留学生受入

令和5年度も本科1年次にタイ留学生を2名（6期生）受け入れた。令和5年4月3日に本校へ到着した。また、専攻科の情報工学コース及び応用化学コースにタイ留学生1期生が1名入学した。なお、4年生情報系の学生1名が後期から休学した。令和5年度末におけるタイ留学生在籍者は12名（本科1年：2名、本科2年：2名、本科3年：2名、本科4年：2名（うち休学1名）、本科5年：2名、専攻科1年：2名）であり、6期生（2023年度（令和5年度）入学）をもってプリンセスチュラポーン王女サイエンスハイスクールから本校の1年次に入学する取組は終了する。

令和6年度入学専攻科選抜試験のタイ政府奨学金留学生特別推薦選抜に本科5年生2名が出願し、合格した。令和6年度に専攻科へ本科5年の2名が進学する。

④本校留学生の活動支援

留学生の健康管理のため成人病検診（血液検査）、インフルエンザ予防接種、麻疹抗体検査を実施した。麻疹抗体検査の結果、抗体値の低い留学生に対しては予防接種を促した。

また、留学生卒業旅行を実施した。令和6年3月5日（火）、参加人数は16名であり、行先はワーナーブラザーズツアー東京 ハリーポッター（旧としまえん）である。年末年始におけるホームビジット（男子留学生2名参加）やライオンズクラブ主催のそば打ち体験など、日本文化を体験できる機会を徐々に行える状況になった。

⑤ひたちなか市国際交流協会との連携

鈴木秋弘校長がひたちなか市国際交流協会の副会長を務めた。グローバル教育センター長はじめ、同センターの関係教員が理事会へ出席し、地域と本校との国際分野での連携を深めた。令和5年度も前年度同様、多文化交流グループ主催の「こくさいちゃんカフェ」等のイベントへ本校留学生が参加した他、朝鮮理工大学の学生を受け入れた際には、かけはしグループ／国際交流ひろばグループとの交流や、日本文化体験活動の実施など多方面にわたった連携を展開することができた。

⑥トビタテ留学 JAPAN

高校第8期に3名が派遣留学生として採用された。

⑦グローバルエンジニア育成事業

令和5年度も「持続可能なグローバル社会をけん引する人材育成」事業が、高専機構本部のグローバルエンジニア育成事業として採択され、今年度は当該事業の最終年度となった。当該事業は、持続可能なグローバル社会をけん引する人材として、英語でのコミュニケーションスキルに加えて、認知能力、社会性、課題発見・解決能力を備えた学生の育成を目指すものである。

令和5年度事業の取組概要は以下のとおり。

番号	実施項目	概要
1.1	グローバル授業の実施	本科および専攻科に設置されているグローバル関連科目を、本校カリキュラムポリシーに沿ってそれぞれの科目で実施された。低学年のグローバルライフサイエンスやグローバルアウェアネスをはじめ、PBLスタイルのグローバル PBL などさまざまなコンテンツとスタイルで、学生のグローバルマインドの涵養に注力することができた。
1.2	グローバル授業の設計	Global Science の授業を PBLスタイルで実施した。その中での取り組み内容を P C S H S でのサイエンスフェアで発表するなど、学内外での取り組みに展開することができた。Project Management の内容についても、学生がよりアクティブに取り組めるよう、具体的なビジネス課題解決というスタイルで授業を実施した。

2.1	キャリア教育の実施	本科3年対象のキャリア教育で、地元企業と協力してオンライン企業研究を行った。地元企業及び大手企業による企業研究会を実施し、4年生のキャリア学習を促進した。グローバルに展開する大手企業も参加し、実際の企業に求められる資質についても多くを学ぶことができた。
2.2	キャリア教育の設計	2022年度の課題抽出をもとに、本校内での組織キャリア支援、地域連携、広報そしてグローバルセンター、各部署間の連携を強め、学生のニーズや問題に対応できる体制を整えた。具体的には、トビタテやWSCなどの学生参加のサポートおよび事前/事後の研修および指導を充実させることができた。
3.1	起業家プログラムの実施	本校の地域連携統括本部による、地元企業とのインターンシッププロジェクト(MIPPE, MIPPE+)を実施し、実践的な教育内容の導入にも注力した。加えて、フィンランド(Turku 応用科学大学)のプロジェクトに本校から PCSHS 学生1名を参加させることができた。
3.2	起業家プログラムの設計	3.1に記載したプログラム実施のため、本校の地域連携統括本部やキャリア支援センターとの連携・協働により、内容の充実化を図っている。ワールドワイドな視野で仕事に取り組むことができるようなビジョンと感覚を学生に意識させるため、海外研修のプロジェクトの中で、現地での企業やプラント等への訪問をプログラムとして導入し、学生の積極的な学びと理解を促した。
4	学生の海外発表	韓国の朝鮮理工大に訪問し、研修及びその成果発表を現地で行った。タイの PCSHS 主催の現地イベントに参加し、本校や日本文化及び技術課題についてポスター発表及び討議を行った。トビタテおよびWSCでは、本校からの学生が現地でプレゼンテーションを行い、現地の学生との交流や意見交換も含めてしっかりと取り組むことができた。

5.1	協定の締結	今年度は、新規および更新の協定案件はなかったが、R6年度はPCSHSのペチャブリ校との協定更新があるため、その事前うち合わせとして現地に教員を派遣し、キャンパスの見学を含め、今後の協働プロジェクトについても討議を行った
5.2	協定に基づく派遣	上記項目4のように、韓国、インドネシア及びタイにそれぞれ学生を派遣し、現地学生との交流、研修実施加えてその成果発表等を現地で行った。帰国後も本校での報告会を実施し、情報発信と本校学生への啓発にも力を入れた。
5.3	協定に基づく受け入れ	フランスのルーアン応用科学大学から1名の学生を受け入れ、本校での専門分野に関するインターンシップをジッした。韓国の朝鮮理工大から10名の学生を受け入れ、本校での研修(工学、日本文化)および学生交流を実施した。

⑧グローバル教育センター会議

1) 第1回

開催日：令和5年6月29日(木)

議 題：1. グローバル教育センター規則・構成員について

2. 令和5年度業務分担について

3. 令和5年度グローバル教育センター予算について

4. グローバルエンジニア育成事業について

・令和4年事業報告

・令和5年度事業計画

・ヒアリングについて

5. タイ政府奨学金留学生受入事業について

・2022年度取組実績

・2023年度事業計画

・2023年度予算執行計画

6. 留学生支援ブロック拠点校事業について

・2022年度取組実績

・2023年度事業計画

・2023年度予算執行計画

7. タイ政府奨学金留学生の進路等について

8. 令和5年度学生海外派遣計画について

9. 令和5年度グローバル関係の外部資金等の申請、採択状況について

10. その他

(1) INSA ルーアン応用科学大学インターシップ学生受入について

(2) 危機管理マニュアルについて

(3) グローバル化推進担当事務職員の協力について

(2) 自己評価（改善含む）および課題

①筑波大学連携事業 Global PBL

昨年度より受講者数は減少したが、集中講義（対面授業）で開講することができた。

②留学生（正課生）の受入

受入れの初期においては、日本語が不慣れで学習面でのサポートが必要であったり、食事等の習慣が合わず気持ちが沈んでしまったりする留学生も見受けられる。留学生に関わる関係教職員の注意深い見守りと支援が重要であるため、次年度もより関係各位の連携を密にしていく。

③タイ留学生受入

タイ留学生の受入は、6期生（2023年度入学）までの予定である。これまでに実施した学習・生活支援に係るノウハウや情報を集め、受入れている学生に対して、より良いサポートが図れるように関係者と情報を共有する。

④本校留学生の活動支援

少しずつではあるが、留学生卒業旅行など、新型コロナウイルス感染症「後」の留学生行事を実施・検討できる状況となった。次年度以降は、留学生が日本文化等を体験できる機会を積極的に設けていきたい。

⑤ひたちなか市国際交流協会との連携

次年度以降も連携を続け、更なる関係の強化を図っていく。

⑥トビタテ留学 JAPAN

次年度以降も適切に学生へ情報提供を行い、支援していく。

⑦グローバルエンジニア育成事業

海外研修（海外インターンシップ、語学研修、フィールドスタディ等）、トビタテ、WSCの参加が増加傾向にあり、特にトビタテでの申請が最終年度では4名（本科3，専攻科1）まで増やすことができた。単なる英語の学びだけではなく、英語を用いた現地でのさ

まざまな取り組み（プレゼン、ディスカッション、専門分野学習等）に関わることができるようになってきた

オンキャンパスの活動（留学生交流イベントや、地域での協働行事等）では、留学生と日本人学生がともにフラットな関係でその関連の活動内容に対してしっかりと取り組むことができるようになった。これによって、留学生も日本人も相互に支え合ったり、新たな視点や感覚を共有できるようになり、真のグローバルマインドに近づくことができたように考えている。あわせて、本校留学生（タイ出身）がインドネシアの海外研修に参加してプログラムに取り組むことがあったが、インドネシア、タイ、そして日本の学生が英語やインドネシア語、あるいは日本語を駆使して楽しくかつ有意義に活動に取り組むことができた。

地元自治体やロータリークラブ主催の交流イベントを通じて、学生同士だけではなく地域の方々との交流活動もしっかり行うことができるようになってきた。特にひたちなか市との協働活動としては、国際交流文化祭と称してイベント活動を行い、本校を含めた高専のPR活動を行うことができた。一方では、海外に生産拠点（タイ、ベトナム等）をおいている茨城県内の企業から、本校留学生の求人とそれにつながるインターンシップのオファーをいただくなど、アントレプレナシップにもつなげられるような提案もいただいている。これらの成果から、地域社会や一般企業からも本校のグローバルな取り組みに対して、高い注目と評価を得ているととらえている。

(3) 今後の展開

これまでも行ってきた協定校からの学生受入に加え、グローバルキャンプや第2ブロック内の留学生交流、タイ高専留学生(R6年度編入学)の学生のサポート、PCSHS協定校との交流プロジェクトなど、オンキャンパスでの業務への注力が必要となってくる。

海外への学生送り出しと同等かそれ以上のオンキャンパスおよび第2ブロック内を考慮したプログラムの準備や実施にしっかり取り組んでいく。

1 1. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）

（1）取組実績

教育活動全般を通じた男女共同参画の推進、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るための環境整備、男女共同参画の意識啓発などを目的とし、男女共同参画推進センター運営委員会で立案の上、次の活動を行った。

①盗撮機器等調査の実施

男女共同参画推進センター運営委員会委員と女性教職員の協力のもと、男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレ、男子更衣室及び女子更衣室の盗撮機器等の有無を目視にて調査し、盗聴器等の不審物が無いことを確認した。

②第二学年対象ジェンダー講演会の実施

LGBT やジェンダーに関する考え方について見識を深めることを目的として、次のとおり講演会を開催した。

- ・ 開催日： 令和5年12月13日（水）
- ・ 対象者： 第2学年学生
- ・ 講師： にじいろ神栖 代表 河野 陽介 氏

③教職員対象 ワーク・ライフ・バランスに関する講演会の実施

本校における男女共同参画推進活動の一環として、ワーク・ライフ・バランスについての理解を深める場を設け、教職員の意識改革を図ることを目的として、次のとおり講演会を開催した。

- ・ 開催日： 令和6年3月25日（月）
- ・ 対象者： 全教職員
- ・ 講師： 合同会社ケアマネジメントオフィス ファースト 一瀬 将宏 氏

④男女共同参画推進センター運営委員会

1) 第1回（メール会議）

開催日：令和5年12月17日（木）～12月12日（火）

議題：

【報告事項】

1. 令和4年度活動内容について
2. 令和5年度年度計画について

【連絡事項】

1. 第2学年対象ジェンダー講演会の実施について
2. 令和5年度盗撮機器等の定期検査について

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 盗撮機器等調査の実施について、女子トイレ、女子更衣室に加えて、男子トイレ、男子更衣室、多目的トイレも調査の対象とした。学生、教職員の不安解消、不審者及び不審物設置防止を目的とし、次年度も引き続き調査を行う。
- ③ 男女共同参画推進センター主催の講演会について、学生の意識向上がみられた。次年度も引き続き開催を開催する。
- ④ 今年度、初めて、「介護」に焦点を当てて講演会を開催した。

(3) 今後の展開

ジェンダー及びLGBTに関しては重要な課題として捉えており、講演会等を実施して学生及び教職員の見識の向上を図っているが、今後は社会の動向を注視しながら、より一層の見識の向上及び施設の整備を図っていく。

学内組織体制の変更により、令和6年度よりダイバーシティ推進センターへと改組することとなった。今後は、男女共同参画のみならず、ダイバーシティの積極的な推進を図り、様々な課題に取り組んでいく。

1 2. 地域連携・研究活動（副校長（地域連携・評価）、産学連携センター）

（1）取組実績

地域連携・研究活動については、研究活動の活性化と、社会・地域との交流を促進するシステムづくりに努め、茨城高専から情報を発信し、教育研究上の成果を社会・地域に積極的に還元する取組を行い社会貢献することを目的として、副校長（地域連携・評価）並びに産学連携センターにおいて立案し、次の活動を行った。

【副校長（地域連携・評価）】

①地域連携関係

1) 高専ティーサロンの開催

地域の企業や有識者の皆様から、教育や地域連携など本校が抱える課題についてご助言をいただく場として、今後の学校運営に反映させることを目的に、本校に対するご要望や教育内容に関するご意見等をいただき、お茶を飲みながら率直な意見交換を6月～11月の間に計15回開催した。

②茨城高専地域協働サポートセンター（以下「サポートセンター」と記載）関係

1) 卒業生の就職相談関係

令和5年度は茨城高専HPに掲載している卒業生就職相談窓口を通しての就職相談はなかった。就職相談依頼からの流れは、

- （1）本校HPの卒業生就職相談窓口を見て本校へ申込
- （2）神野河助教と相談依頼者とのヒアリング日程調整
- （3）ヒアリングの実施（都合が合えば相談依頼者の担任や卒業研究担当教員も同席）
- （4）相談依頼者の就職に対する思いを考慮した上で該当する企業をアドバイス。

③茨城高専ギャラリー2024

1) MIPPE（地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム）企業PR動画審査会の実施

3月7日本校にて、専攻科生が対象となる企業を取材し、半年間協議を重ねながら制作した動画コンテンツを展示披露するとともに、審査会を開催し、優秀なコンテンツを表彰した。

【産学連携センター】

①茨城高専知財委員会による審査

年金納付：3件、発明等届審査：1件、譲渡審議：1件を実施した。詳細は下記のとおり。

区分	名称	担当教員	審査結果
年金納付	結晶化分析装置及び結晶化分析方法 ※高専機構単独	G部 若松教授	承認
年金納付	熱電変換素子出力制御装置 ※企業との共同出願した権利	E系 関口教授	承認
年金納付	分析装置および分析方法 ※福島高専、福島大学の3者との共同出願	G部 若松教授	承認
発明等届	チタン系材料 ※企業との共同出願	M系 安藤亮助教	承認
譲渡	点検装置 ※共同発明者の企業への譲渡	M系 岡本教授	承認

②研究成果の外部公表

1)学内からの発信

研究彙報（第59号）（L部 大武講師、L部 大津准教授、G部 浜元特命准教授、I系 蓬萊教授）を作成し、茨城高専ホームページに掲載して外部へ公表する。また、茨城高専シーズ集及びリーフレットを作成し、PDF版を茨城高専ホームページに掲載している。
※茨城高専 HP 掲載場所 HOME/施設センター紹介/茨城高専地域共同テクノセンター

③ひたちなか市との包括連携協定関係

1)なかネットワークシステム(NNS)関係

7月21日：通常総会（ワークプラザ勝田）

6月～3月：運営委員会（本校にて計3回開催。委員長は岡本副校長）

NNS 新年賀詞交歓会、NNS ひらめきサロン、公開講座は、開催せず。

2)市民大学の開講

開催せず。

3)青少年のための科学の祭典ひたちなか大会

11月4日、5日にひたちなか市総合運動公園総合体育館にて開催され、「身近な科学を学ぼう」というテーマで茨城高専から下記2件を出展した。

1. ドローンシミュレータ（M系 澤畑准教授、M系 岡本教授）

2. ロボカープログラミング（M系 長谷川准教授、G部 奥出教授）

4) 学童クラブ育成支援充実事業

学童クラブ育成支援充実事業として、ひたちなか市と委託契約を締結。放課後に学校の理科室を利用し、茨城高専の教員（C系 小林准教授を中心に、L部 原教授、G部 奥出教授、G部 二田助教、M系 長谷川准教授、M系 小野寺准教授、M系 村上准教授、E系 服部助教、C系 佐藤(稔)教授、C系 山川助教、伊吹技術職員）と学生（述べ人数）132名が講師となって、外野小学校及び中根小学校の児童（延べ人数）265名を対象に理科の実験を中心とした体験活動を行い、児童たちの学習に対する意欲・関心を高める活動を下記の日程で行った。

回	開催月	内 容	開催場所
1	6月	空気で遊ぼう	外野小学校
2	7月	虹を作ろう	外野小学校
3	8月	マイコンで宝さがしゲーム ミクロの世界を探検しよう	中根小学校
4	9月	磁石の力で遊ぼう	外野小学校
5	10月	翼型で遊ぼう	外野小学校
6	11月	音で遊ぼう	外野小学校
7	12月	高専ラボ振り返り 星を見よう	外野小学校

5) 環境シンポジウム 2024

2月10日に、ひたちなか市が主催による「環境シンポジウム 2024」がひたちなか市文化会館にて開催され、以下のテーマを学生が発表した。

1. ほしいも加工残渣の堆肥化に伴う悪臭物質の分析と悪臭緩和

④ 大洗町教育委員会との連携

令和2年度より必修化された小学校プログラミング教育の教材を、大洗町教育委員会とともに開発し支援することを目的とした「小学校プログラミング教育教材製作プロジェクト」を継続して実施。新型コロナウイルス感染症の影響により模擬授業は実施できなかったが、製作する教材の対象学年を拡大し、教材の充実を図った。

⑤ 科学研究費助成事業講習会の開催

開催せず

⑥研究推進委員会の開催

令和5年度は5回実施した。開催日時と議題は下記のとおり。

1) 第1回：令和5年4月4日（火）メール審議（4月7日（金）17時期限）

議題【審議事項】

1. 令和5年度高専一長岡技科大共同研究の申請順位について（申請2件）

2) 第2回：令和5年7月19日（水）メール審議（7月24日（月）期限）

議題【審議事項】

1. 特許権の年金納付について（審議内容：年金納付の可否）

2. 特許権の年金納付について（審議内容：年金納付の可否）

3. 特許権の年金納付について（審議内容：年金納付の可否）

3) 第3回：令和6年1月29日（金）

議題【審議事項】

1. 知的財産権の機構承継について（審議内容：機構承継のための申請の可・否）

2. 知的財産権の譲渡について（審議内容：譲渡の妥当性を可・否）

4) 第4回：令和6年2月26日（月）メール審議（3月4日（月）期限）

議題【審議事項】

1. 研究推進委員会規則について（審議内容：規則の改正）

5) 第5回：令和6年3月22日（金）

議題【審議事項】

1. 研究彙報59号（令和5年度）への投稿論文4本について

（審議内容：研究彙報への掲載の可・否）

【研究協力・地域連携関係】

①国内の大学等との連携協定に係る事業

1) 筑波大学との連携協定に基づく活動

筑波大学との連携協定に基づき「グローバル工学基礎（PBL 演習）」へ大学院留学生（システム情報工学研究群（科）6人）をティーチングアシスタント(TA)として受け入れ、本校授業の教育指導等を行うことで交流を図った。

②外部資金の受入

令和5年度外部資金受入一覧（件数と受入金額）

資金種別	受入件数	受入金額（円）	備考
共同研究	15件	11,365,000円	茨城高専に入金がないものは含まない。
受託研究	0件	0円	
受託事業	2件	892,000円	ひたちなか市放課後子ども教室 ほしいも加工残渣実証試験
補助金	1件	1,376,000円	JKA補助事業
研究助成金	8件	6,591,632円	
寄附金	11件	3,130,000円	教育研究基金9件を含む。
受託試験料	0件	0円	
技術相談料	0件	0円	
科研費	12件	直接9,000,000円 間接2,910,000円	補助金1件、基金8件、分担金 3件

③researchmapへの登録

教員に対してresearchmapへの登録を依頼し全教員の登録を確認した。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 茨城高専ギャラリーは、MIPPE（地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム）企業PR動画審査会を実施した。
- ② 今年度、ひたちなか市との連携事業として学童クラブ育成支援充実事業が実施され、ひたちなか市や参加者から高評価をいただいている。来年度以降も継続していくことで、地元におけるプレゼンスの向上につなげていく。
- ③ 小学校プログラミング教育を大洗町との協力事業で行った。この取り組みについては高専機構も推進しており、今後、この事業を拡充していくための体制整備が必要である。

(3) 今後の展開

教育・研究は、それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献が求められており、こうした社会貢献について茨城高専が社会・地域に還元すること・できることを考え、地域の活性化に繋げていく。

昨今の社会や経済的環境の変化に対応するために、これからの高専には地域産業への貢献や地域創生の機能を取り込むことが期待されている。これまで果たしてきた人材育成中心の役割に加えて、地域産業や自治体との高度な連携が必要になる。ひたちなか市をはじめとする地元自治体や地元企業との連携を強化していくことによって、地域社会のDX及びSDGsに高専が貢献し、その活動を通して、高専学生の教育においても効果を上げていくことが期待できる。

1 3. 教育組織(教員任用審査会)

(1) 取組実績

① 採用

- ・ 令和6年4月1日付けで、後任補充として、一般教養部に講師1人、助教1人、機械・制御系に准教授1人を採用した。

② 昇任

- ・ 系・部から推薦のあった候補者5人に対し審査を実施し、令和6年4月1日付けで講師5人の昇任人事を実施した。

③ 再雇用

- ・ 令和6年度再雇用を希望する教員3人に対し、所属系長等から提出された再雇用計画の審査を行い、同人らの再雇用を承認した。

④ 特命教員

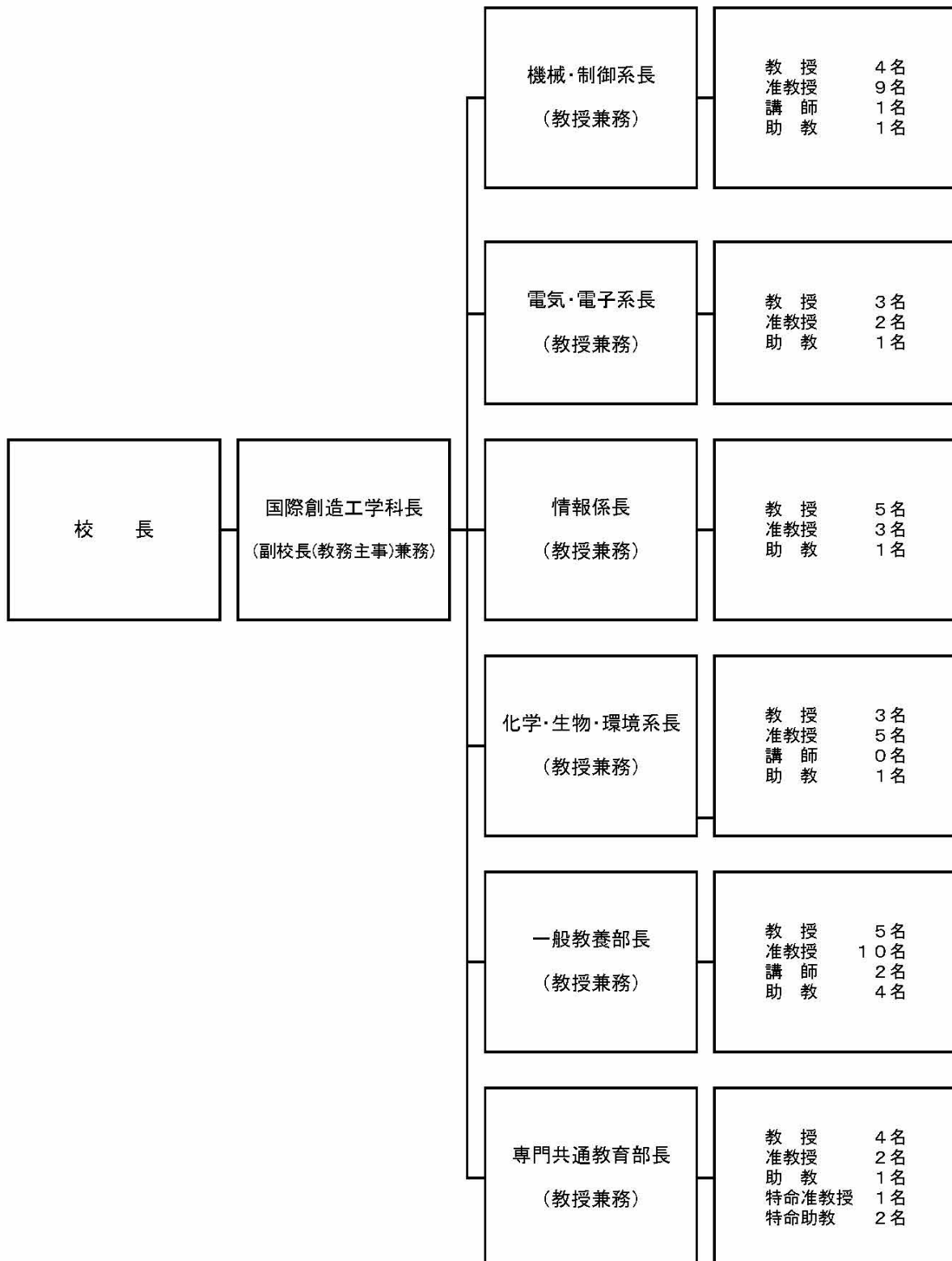
- ・ タイ留学生の受け入れに係る事業に携わる者として、雇用された特命准教授1人（日本語）、特命助教1人（自然科学）について契約更新を行うことが確認された。

⑥ 非常勤講師

- ・ 令和5年度非常勤講師として、前期31人、後期39人を雇用した。
- ・ 各系等から推薦のあった令和6年度非常勤講師候補者について審査を行い、令和6年度は43人の非常勤講師について、契約更新又は採用することを承認した。

教育職員 配置図

令和6年4月1日現在



1 4. 教育支援組織(事務部)

(1) 取組実績

① 採用

- ・ 令和5年7月1日付けで、人事交流により茨城大学から課長補佐級1人を受入れ、総務課課長補佐（総務担当）として配置した。
- ・ 令和5年8月1日付けで、欠員補充として、総務課施設管理係に係員1人、学生課寮務係に係員1人を採用した。
- ・ 令和5年9月1日付けで、欠員補充として、総務課財務係に係員1人を採用した。
- ・ 令和5年9月1日付けで、育児休業代替職員として、総務課人事・労務係に係員1人を採用した。

② 出向

- ・ 令和5年7月1日付けで、人事交流により茨城大学へ主任級1人を派遣した。

③ 配置換・課内異動

- ・ 令和6年4月1日付けで、以下のとおり実施した。
 - ・ 学生課学生支援係長（兼務：寮務係長）を学生課学生支援・寮務係に配置換した。
 - ・ 学生課学生支援係員3人を学生課学生支援・寮務係に配置換した。
 - ・ 学生課寮務係寮務主任1人を学生課入試係入試主任に配置換した。
 - ・ 学生課寮務係員1人を総務課総務係に配置換した。

④ 兼務

- ・ 令和6年4月1日付けで、事務部長が学生課長を兼務することとなった。
- ・ 令和6年4月1日付けで、学生課課長補佐に学生課入試係長及び図書・情報係長を兼務させた。

⑤ 再雇用

- ・ 令和6年度に本校での再雇用を希望する職員1人を学生課教務係に再雇用した。
- ・ 令和6年4月1日付けで、学生課学生支援・寮務係、キャリア支援室の再雇用職員各1人の再雇用契約を更新した。

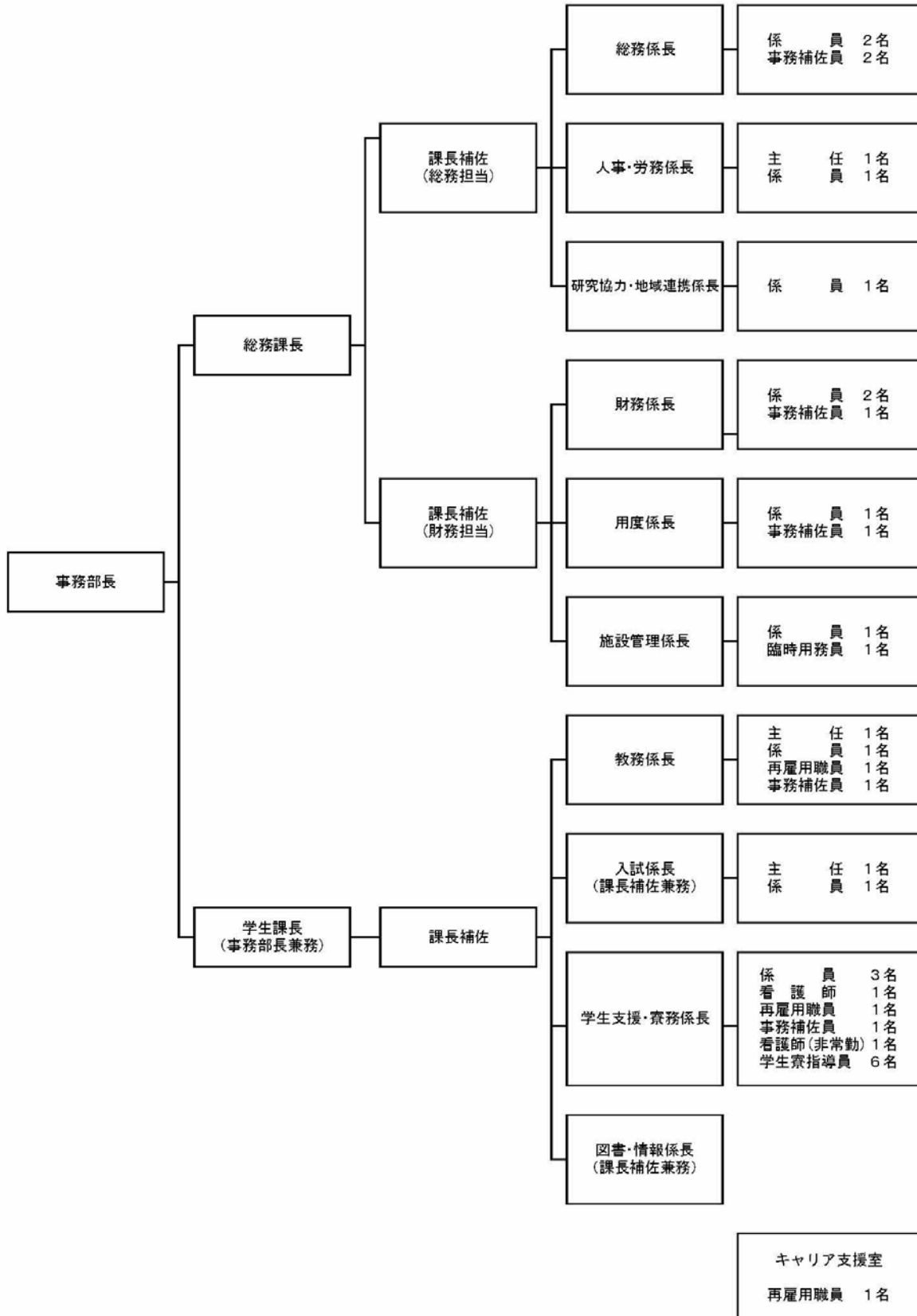
⑥ 非常勤

- ・ 令和5年7月1日付けで、スタートアップ教育環境整備事業の業務補助として事務補佐員5人を採用した。

- ・ 令和5年8月1日付けで、広報業務に対応するための事務補佐員1人を採用した。
- ・ 令和6年4月1日付けで、以下のとおり実施した。
 - ・ 後任補充として学生寮指導員を1人採用した。
 - ・ 非常勤職員15人（事務補佐員6人、臨時用務員1人、カウンセラー2人、スクールソーシャルワーカー1人、学生寮指導員5人）の契約を更新した。
 - ・ 看護師1人が無期労働契約に転換した。

事務職員 配置図

令和6年4月1日現在

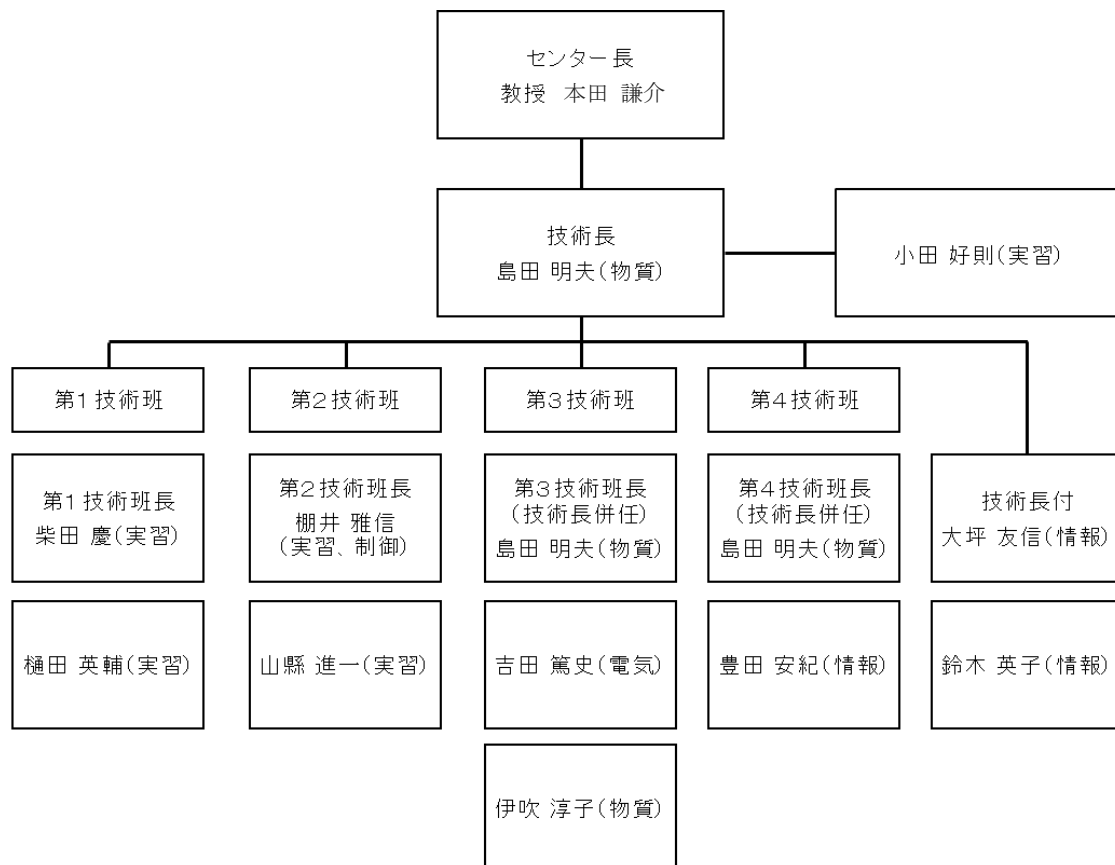


1 5. 技術教育支援センターの概要

1) 設立の目的（茨城工業高等専門学校技術教育支援センター規則 第2条）

センターにおいては、本校の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営及び管理運営等への技術支援体制の充実を図るとともに、本校技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育・研究に資することを目的とする。

2) 組織



技術教育支援センター組織構成図（令和5年4月1日現在）

3) 職務内容

①技術教育支援センターとしての全般的業務

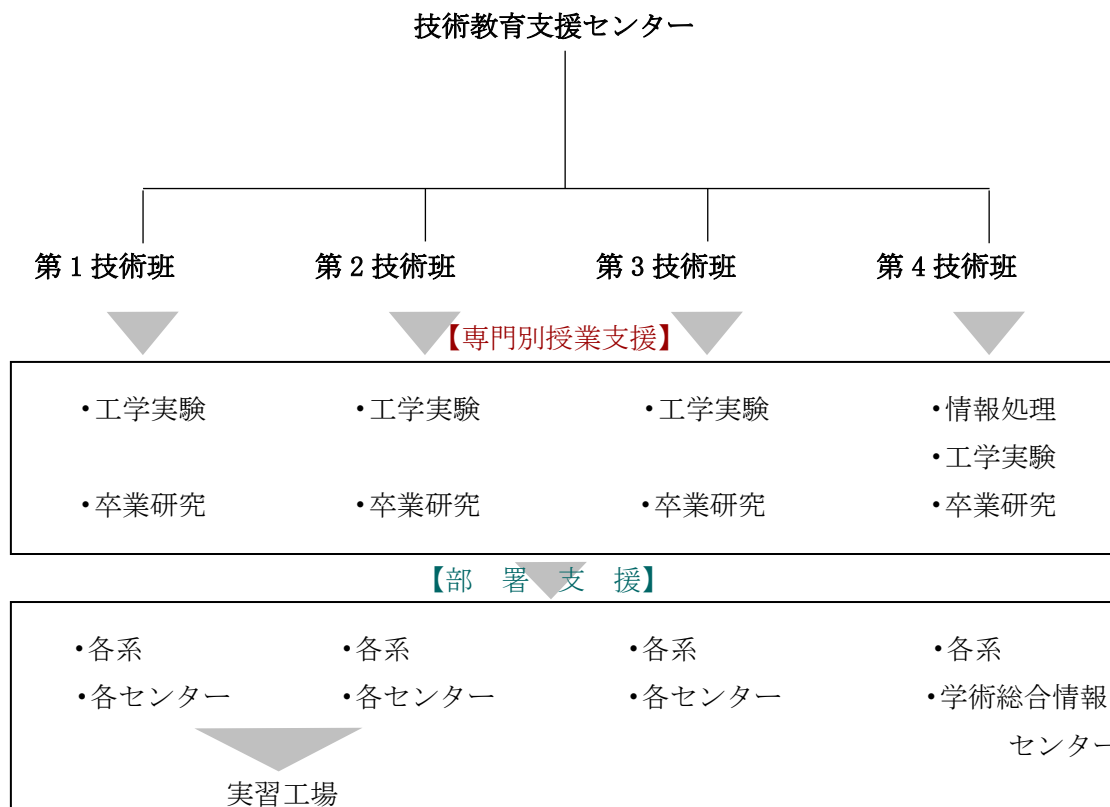
（資料1 技術教育支援センター規則及び資料2 技術教育支援センター管理運営会議規則参照）

②各班の業務

イ. 担当と関連する業務の依頼、相談等の窓口

ロ. 研修会、公開講座等の企画、実施

③職務遂行部署（個人の活動部署）



2. 活動報告

1) 授業等への支援

令和5年度授業等への支援について、各系・部署の要請に沿って実験、実習、演習、授業などの支援を行った。年度開始前に各系・部署からの支援要請を受け取り、調整を行った後に技術教育支援センター技術職員週間スケジュール表の作成を行った。その後、運営会議にて了承を受けた後に上記スケジュールに沿って支援業務を行った。

2) 製作, 作業支援

令和5年度製作等への支援について、各系・部署の要請に沿って卒業研究（本科）、特別研究（専攻科）及び教員研究に伴う製作などの支援を行った。また、部活動に対してはロボット部における高専ロボコン支援として練習フィールドの製作を行った。

3. 講習会等の開催報告

技術教育支援センターでは支援業務の一環として部活・同好会の学生を対象に基本機械操作講習会を定期的で開催している。本講習では主に切削加工に用いる汎用機に関して、基礎的な知識・操作を学ぶ。本年度はロボット部、自動車部の1年生を対象に、5・7月に開催した。

名 称：基本機械操作講習会
実施期間：令和5年5月11日（木）・18日（木）・25日（木）
実施方法：対面方式での講習
講習会場：実習工場
対 象：ロボット部1年14名
講習内容：1. ケガキの使い方、ポンチの打ち方、ボール盤の使用法
2. バンドソー（高速切断機、コンターマシン）の使用法
3. 小型フライス盤の使用法
4. ヤスリの使用法
指 導 者：実習工場技術職員（棚井・山縣・柴田・樋田）

名 称：基本機械操作講習会
実施期間：令和5年7月5日（火）
実施方法：対面方式での講習
講習会場：実習工場
対 象：自動車部1年4名
講習内容：1. ケガキの使い方、ポンチの打ち方、ボール盤の使用法
2. バンドソーの使用法
3. ヤスリの使用法
指 導 者：実習工場技術職員（棚井・樋田）

4. 研修会・講習会・学会等の参加報告

令和5年度中に種々の講習会が開催された。情報共有やスキル向上などを目的として本センター職員が参加したものを以下に記す。

名 称：東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（建築・環境系）
主 催：函館工業高等専門学校
日 程：令和5年8月29日（火）～31日（木）
場所：長岡技術科学大学
出席者：鈴木
実施方法：対面

名 称：第21回関東信越地区国立高等専門学校技術長会議
主 催：長野高等専門学校
日 程：令和5年9月1日（金）

出席者 : 島田
実施方法 : オンライン (Teams)

名 称 : 令和5年度関東信越地区国立高等専門学校技術職員研修会
主 催 : 長岡工業高等専門学校
日 程 : 令和5年9月11日(月)～13日(水)
場 所 : 長岡工業高等専門学校
出席者 : 豊田
実施方法 : 対面

名 称 : 第11回北関東地区技術系職員安全管理ワークショップ
主 催 : 埼玉大学総合技術支援センター
日 程 : 令和5年9月26日(火)
出席者 : 山縣、伊吹、鈴木
実施方法 : オンライン (ZOOM)

名 称 : 関東信越地区高等専門学校情報処理教育研究委員会
主 催 : 木更津工業高等専門学校
日 程 : 令和5年12月7日(木)
出席者 : 豊田
実施方法 : Teamsによるテレビ会議

名 称 : 実践的サイバー防御実習 CYDER2023年プレCYDER オンラインコース
主 催 : 国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT)
日 程 : 令和5年12月22日(金)
場 所 : 合同事務室
出席者 : 鈴木
実施方法 : e-learning (オンライン)

名 称 : IT人材育成研修会
主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構本部
日 程 : 令和5年1月22日(月)
場 所 : 東京都新宿区市谷田町1-14-1DNP 市谷田町ビル 4F
出席者 : 豊田

5. 茨城高専おもしろ科学セミナー2023

本校にて小学生向け理科教室おもしろ科学セミナー2023 が開催された。令和5度は小学4～6年生を対象に講座が開かれ、技術教育支援センターも「作って楽しい！見て感動！立体万華鏡」というテーマで講座を開講した。本年は約15名の生徒が参加した。

6. 青少年のための科学の祭典ひたちなか大会2023

科学の祭典についても例年出展していたが、出展枠の関係上見送り。

7. 会議開催の記録

(1) 令和5年度技術教育センター管理運営会議

令和5年度は情勢を鑑み対面会議ではなく、資料での回覧形式とした。以下に回覧した報告事項を示す。

①令和4年度技術教育支援センター活動報告書

・教育支援センター報告書2023（令和5年度）参照

②令和5年度の活動について

(a) 令和5年度技術職員週間スケジュール

・3月の運営会議にて了承済み（サイボウズに記載）

(b) 科学研究費申請へ応募

(c) 地域貢献活動

・おもしろ科学セミナー 8月19日（土）

・青少年のための科学の祭典 11月頃

③令和5年度研修及び会議

(a) 令和5年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（物質系）

長岡技術科学大学 8月下旬頃

(b) 令和5年度関東信越地区国立工業高等専門学校技術長会議

群馬高等専門学校 8月下旬頃

④技術教育支援センターニュースの配信継続

(2) 技術教育支援センター会議

令和4年度同様コロナ情勢を鑑み、集合形式での会議は見送った。これに伴い、必要に応じてメール・回覧等による連絡を行った。

8. 技術教育支援センター 技術職員 保有資格状況

知識・技量の証明の一つの指標として積極的な取得を推進している。

令和5年4月1日現在（複数資格取得者含む）

分類	資格名	取得者数
職業訓練指導員	職業訓練指導員（機械）	4
	職業訓練指導員（電気）	2
	職業訓練指導員（化学分析）	1
技能士	特級機械加工技能士	1
	特級機械保全技能士	1
	1級機械加工技能士（普通旋盤作業）	2
	1級化学分析技能士	1
作業環境測定士	第1種作業環境測定士（鉱物性粉じん）	1
	第1種作業環境測定士（特定化学物質）	1
	第1種作業環境測定士（金属類）	1
	第1種作業環境測定士（有機溶剤）	1
衛生管理者	第1種衛生管理者	5
作業主任者	エックス線作業主任者	1
	特定化学物質等作業主任者	2
	鉛作業主任者	1
	有機溶剤作業主任者	1
特別教育インストラクター	局所排気装置等定期自主検査インストラクター	1
電気工事士	第2種電気工事士	2
電気通信設備工事担任者	アナログ第3種工事担任者	1
教員免許	中学校教諭免許状（理科）	1
	高等学校教諭免許状（理科）	1
	中学校教諭免許状（数学）	1
	高等学校教諭免許状（数学）	1
毒劇物取扱責任者	毒劇物取扱責任者	2
危険物取扱者	甲種危険物取扱者	1
	乙種第4類危険物取扱者	7
特別管理産業廃棄物 管理責任者	特別管理産業廃棄物管理責任者	1
技能講習	ガス溶接技能講習	3
	玉掛け技能講習	1
	フォークリフト運転技能講習	1
特別教育	アーク溶接特別教育	2
	自由研削砥石特別教育	5

	機械研削砥石特別教育	2
	プレス・シャー金型交換特別教育	2
	特定粉じん作業特別教育	5
	クレーン運転業務特別教育（5トン未満）	1
情報技術者	基本情報技術者	1
	第2種情報処理技術者	2
	HDBaseT インストラクターエキスパート	1
CAD 利用技術者試験	2次元 CAD 利用技術者試験 2級	1
ビジネス・キャリア検定	2級生産管理オペレーション (作業・工程・設備管理)	1

9. 各種委員会委員一覧（技術教育支援センター職員発令分）

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1) 安全衛生委員会 | ・ 構成員 島田 明夫 |
| 2) 安全衛生委員会（実習工場に係る技術職員） | ・ 構成員 柴田 慶 |
| 3) 薬品管理専門部会 | ・ 構成員 伊吹 淳子 |
| 4) 放射線障害予防専門部会 | ・ 構成員 吉田 篤史 |
| 5) 研究推進委員会 | ・ 構成員 棚井 雅信 |
| 6) 男女共同参画推進センター | ・ 構成員 鈴木 英子 |
| 7) 技術教育支援センター管理運営会議 | ・ 構成員 島田 明夫 |
| 8) ハラスメント相談員 | ・ 構成員 伊吹 淳子 |
| 9) 男女共同参画推進センター運営委員会 | ・ 構成員 鈴木 英子 |
| 10) 情報セキュリティ推進委員会 | ・ 構成員 豊田 安紀 |
| 11) 学術情報センター | ・ 構成員 豊田 安紀 |
| 12) 広報委員会 | ・ 構成員 豊田 安紀 |

10. 技術教育支援センター今後の計画、目標

技術教育支援センターでは実習・実験のみならず、授業や卒業研究・特別研究の支援を通して技術教育をサポートしてきた。一方で、近年製作依頼における品物形状の複雑化をはじめとして各系・研究室からの依頼の複雑化・多様化が進んでおり、技術や知識へのより深い理解の必要性が高まっている。ここから、より円滑で柔軟な依頼対応が出来るよう技術職員のスキル向上を目指す。具体的には技術教育の要である実習・実験を通して技能・技術に関してのより深い理解とノウハウの蓄積に努めると共に、各員のスキルを活かした多様な支援の中でその強化を図る。

また、国立高専機構中期目標・計画及び年度計画ならびに茨城高専年度計画に沿った支援が出来るよう技術職員の資質向上に努力する。これに際して学会発表や研修会などに対する積極的な推進と科研費をはじめとした外部資金の獲得等を目指す。

加えて、年2回程度の技術教育支援センターニュースの発行やセンターのウェブサイト

においてリアルタイムに内外へ情報発信可能な場を設けると共に、小中学生向けイベントや公開講座といった地域貢献活動依頼に対して柔軟に対応できるよう努める。

16. 予算及び施設・整備（総務委員会）

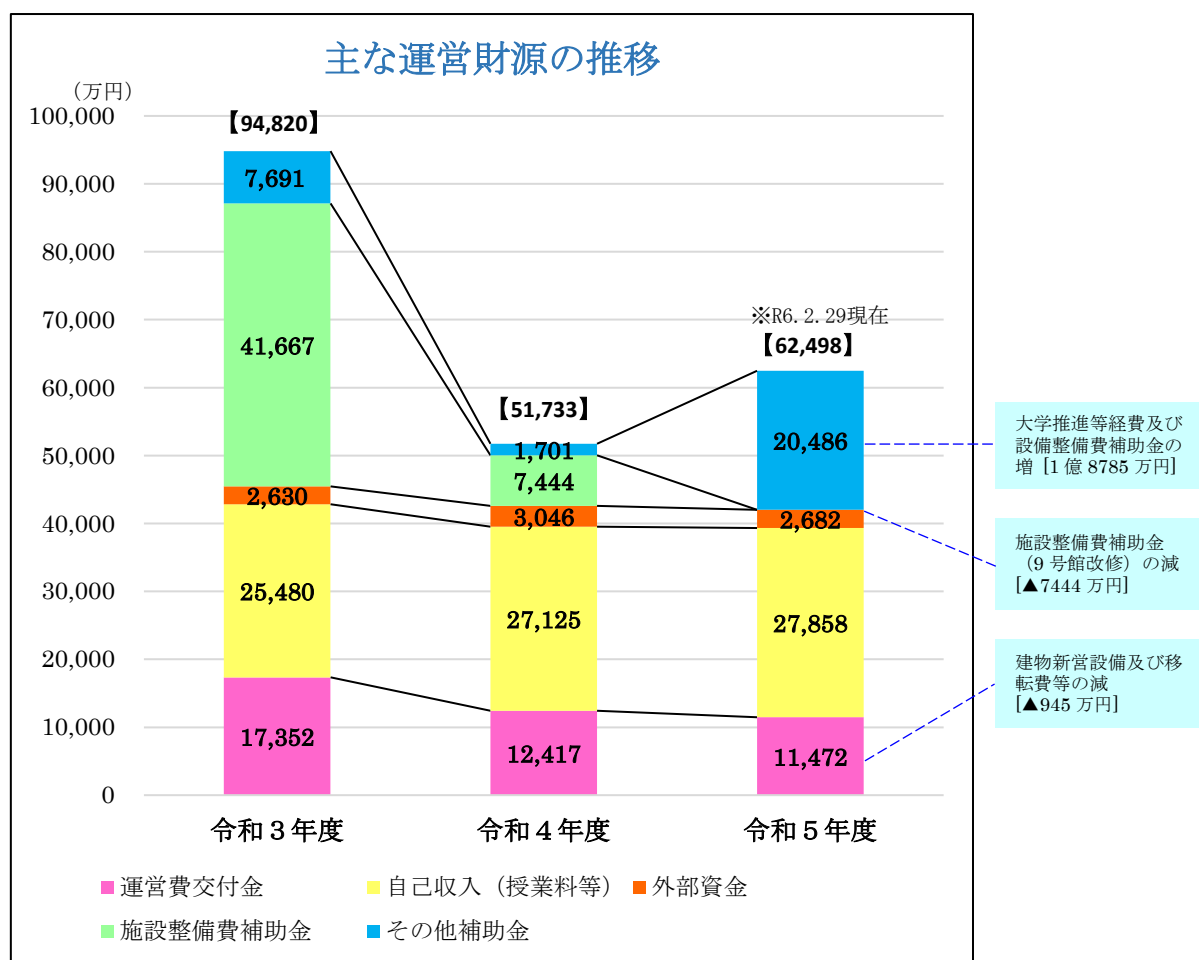
（1）取組実績

①総事業費（収入額）の概況

令和5年度の総事業費（収入額 R6.2.29 現在）は、前年度より1億765万円増加し6億2498万円となりました。増加の主な要因は、国からの資金が主である補助金収入（大学改革推進等補助金・高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業（+9960万円）及び施設整備費補助金（+8825万円））の増加です。

一方で、運営費交付金収入、外部資金収入及び施設整備費補助金収入が減少となりました。減少の主な要因として、前年度に完成した9号館改修工事に伴う工事費、建物新営設備及び移転費等の減少によるものです。

また、外部資金収入については、364万円減少したものの今後の自己収入の確保に努め健全な財務運営を行ってまいります。

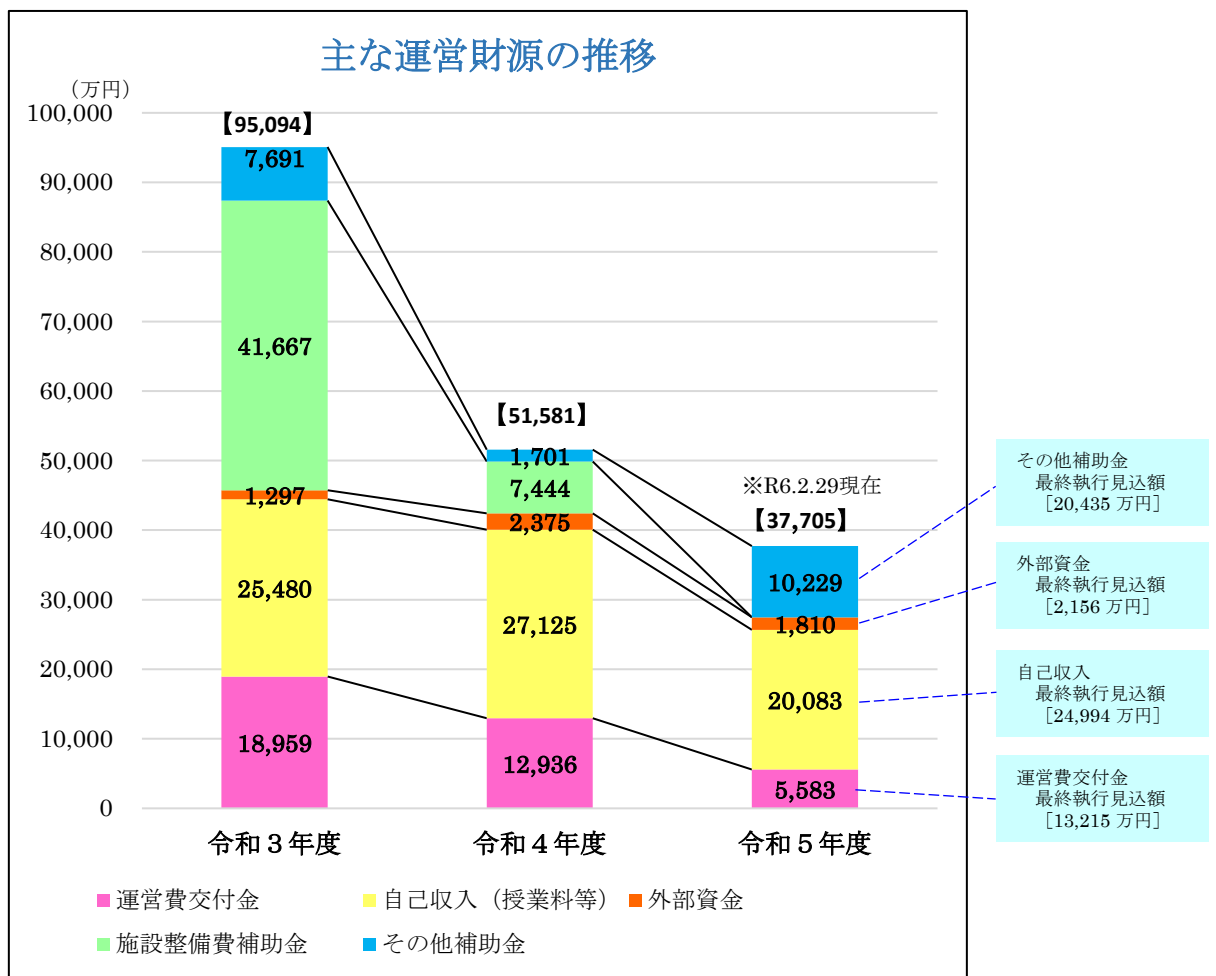


②総事業費（支出額）の概況

令和5年度の総事業費（支出額 R6.2.29 現在）は、前年度より1億3876万円減少し3億7705万円となりました。令和5年度末日までには約6億800万円を支出する予定となっております。

増額の主な要因は、その他補助金（大学改革推進等補助金・高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業及び設備整備費補助金）の支出です。

一方で、運営費交付金収入及び施設整備費補助金の減額の主な要因として、前年度に完成した9号館改修工事に伴う工事費、建物新営設備及び移転費等の減少によるものです。



③予算

運営費交付金事業の予算については、運営費交付金算定ルールによる効率化の減額のほか物価高騰及び光熱費による厳しい支出状況の中、当初配分方針及び校長裁量経費等に基づき教育の質が落ちないように学科（各部・系）等への配分基準額は現状維持に努めた。当初配分では毎年減額が続いているものの決算時の予算執行残額調整の精度を上げ、機構本

部からのインセンティブや計画的な採用抑制への取り組み等を図ることで教育改革推進経費の増額に努めたほか、高度化推進経費「学生の教育研究環境の充実」(15百万円)を獲得することが出来た。

また、11月末日で予算執行を締め切り、残予算を有効活用するために集約し各部・系等への教育研究活動経費、大型設備維持運営費(9百万円)を追加配分したほか、委員会等経費及び施設維持管理に対応した整備等(8百万円)を実施することで、予算の有効活用を推進した。

さらに、期末執行集中防止と効果的な活用を促進するため昨年度予算実績の50%を4月に配分し、校長のリーダーシップの下、戦略的かつ計画的な学校運営を行うことが出来た。

外部資金の獲得については、外部機関等との積極的な連携・協力により、教育研究支援基金や共同研究、受託事業に繋げる活動を積極的に実施した。

① 施設・整備

国立高専機構施設整備の中期的施設計画である「国立高専機構施設整備5か年計画2021(令和3年度～7年度)」により令和5年度補正予算にて7号館の教育機能向上を含む老朽改善を目的とした改修事業が採択され、令和6年度完成に向けて実施しております。

また、国立高専機構営繕事業において第2体育館屋根改修工事(12百万円)を施工したほか、機構本部から予算配分された教育等施設基盤経費40百万円を施設維持管理などの施設関係に全額配分することで安心・安全な教育研究環境の確保及び高専教育の国際化への基盤整備に努めた。

整備計画としては、キャンパスマスタープラン2018に基づき、老朽化の著しい施設の改修の要求、学習環境整備及び緑地管理を実施したほか、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の防止に向けて衛生環境の改善を実施した。

(2) 自己評価(改善含む)及び課題

① 予算

毎年配分される運営費交付金(管理運営費等)の額は減少しているほか、施設維持管理費、物価高騰及び光熱水費の増加傾向が続く中、教育の質を維持するため本校では集約予算及び高度化推進経費を有効活用することで、教育研究活動に支障が生じないように予算を配分している。集約予算については、その大半が追加配分の教育改革推進経費で占めている為、機構本部で考えている教育改革推進経費の加減額が影響されている。今後は文部科学省や高専機構の新しい政策に取り組み、地域や社会の要請を敏感にとらえ、外部資金の導入促進など財源の多様化のための取り組みを推進し、必要な財源確保に最大限努力していくことが必要である。

また、経常経費の圧縮が喫緊の課題となり、光熱水費の抑制のほか、特に委員会等経費については、前年度を踏襲した予算要求が数多く見られることから、必要性・緊急性並び

に教育効果等を十分検討した上で、学校全体の為に有効活用するよう意識改革させることが今後の課題である。

②施設・整備

キャンパスマスタープラン 2018 に基づき、教育研究環境の改善及びキャンパス整備を上記取組実績のとおり計画的に実施した。

なお、老朽化した既存設備については、多様な財源の活用も視野に入れ計画的に整備を行う必要があり、適切な維持管理を行い、設備の長寿命化を図る必要がある。

また、高専機構施設整備 5 か年計画 2021 が策定されたのを受け、本校戦略会議（10 年計画ワーキンググループの再構築）において施設整備計画の見直しを図りつつ、キャンパスマスタープランの更新を検討している。

今後は、施設整備の充実に取り組みを行い、質の高い安全な教育研究環境の確保とともに、教育の高度化、国際化並びに SDGs に対応した施設整備を進める必要がある。

(3) 今後の展開

本校が質の高い実践的・創造的技術者育成教育を行うことができるよう、基盤的な環境の整備を図る上で、運営費交付金や学生納付金以外から多様な財源の確保に努めていき、無駄な予算執行を極力抑えていけるように教職員一体となって意識改革を行っていく必要がある。

1 7. 安全衛生管理（安全衛生委員会）

（1）取組実績

安全衛生委員会では、年間安全衛生推進計画を策定し、同計画に基づき実施及び実施状況の確認を行っている。

以下は、同計画の実施項目に沿った実績報告である。

①安全衛生管理

1) 安全衛生委員会の開催

法令に基づき、毎月1回安全衛生委員会を開催した。

2) 職場巡視の実施

法令に基づき、衛生管理者及び産業医による職場巡視を実施し、4S（整理・整頓・清掃・清潔）を推進した。

指摘があった事項については、安全衛生委員会へ報告の上、是正措置を講じた。

3) 4S（整理・整頓・清掃・清潔）推進に伴う赤札作戦の実施について

2月～3月にかけて赤札作戦を実施し、不要物品の洗い出し及び廃棄を実施した。

②安全衛生啓発活動及び訓練

1) 各種行事等の周知

全国安全週間、全国労働衛生週間、年末年始無災害運動、全国交通安全運動の各行事について学内周知を行い、教職員への啓発を実施した。

2) 自衛消防訓練、初期消火訓練の実施について

10月に全学生、全教職員を対象として自衛消防訓練、初期消火訓練を実施した。

3) 学寮避難訓練の実施について

4月及び10月に学生寮における避難訓練を実施した。

③心と体の健康づくり

1) 健康診断の実施

法令に基づき、定期健康診断、特殊健康診断、特殊歯科検診等の各種健康診断を実施し、受診可能な者（人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含む。）は全員が受診した。

また、産業医が健康診断結果を確認し、必要と認める者に対しては健康指導等を実施した。

2) ストレスチェックの実施

法令に基づき、ストレスチェックを実施した。

高ストレス者については、希望者を対象として産業医による面接指導を実施した。

3) 感染症予防事業の実施について

感染症対策事業として、インフルエンザ予防接種を実施した。

④安全衛生教育

1) 「学校安全の心得」の配付

例年、グループウェア・サイボウズにより電子版を掲載し、教職員が閲覧可能な状態にしている。

2) 「実験実習安全必携」の配付

Google ドライブを活用し、全学生に対し電子データによる配付を行った。

⑤機械、薬品等の定期点検による安全確保

1) 機械の特定自主検査等の実施

対象機械について、特定自主検査を実施した。

2) エックス線発生装置の点検実施

エックス線発生装置の点検を実施し、異常がないことを確認した。

3) 薬品使用状況及び廃液の点検

薬品管理システムにより薬品管理を実施するとともに、実験等による薬品廃液については、回業者へ委託し廃棄処理をした。

4) 作業環境測定及び大気環境中のアスベスト濃度測定の実施

9月及び3月に、本校の作業環境測定士を中心として上記測定を実施した。

5) 局所排気装置の点検

法令に基づき、局所排気装置の点検を実施した。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含め、該当者全員が定期健康診断を受診できており、引き続きこの状況を維持できるようにする。
- ② 衛生管理者能力向上教育への衛生管理者派遣について、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年度も派遣を見送ったが、最新情報の取得や最近の動向把握にも役立つため、継続的に実施していく必要がある。
- ③ 普通救命講習会の実施について、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も実施を見送ったが、教職員の救急救命措置能力の習得・向上のため、定期的の実施していく必要がある。

(3) 今後の展開

- ① 学科改組により教員組織の構成員及び教員室の場所が変更となる可能性があったため、対応を見送っていた①「学校安全の心得」の改定作業、②実験室使用者及び薬品使用状況調査を実施する必要がある。

- ② 作業環境測定士等の有資格者を複数人確保し、当該有資格者の業務負担軽減及び当該有資格者が対応困難な際の相互補完が可能な体制を構築する。

18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）

（1）取組実績

自己点検・評価については、各事項を所掌する委員会等で行うこととなっており、それを総合して点検・評価する組織として自己点検・評価委員会を設置している。

当委員会では、主に教育点検・評価システムの検討及び改善、外部評価の受審、年度計画実績の評価等を行っており、今年度は次の活動を行った。

①授業評価アンケートの実施

前期開講科目は前期期末試験終了後に、後期開講科目及び通年開講科目について後期期末試験終了後に授業評価アンケートを実施した。アンケートは、原則全科目・全教科を対象として実施した。

個人の評価については、各系長等及び各個人にフィードバックした。

②担任評価アンケートの実施

担任評価アンケートを、年度末の授業最終週に実施した。今年度から建設的な意見を受け入れることを目的に新たに自由記述欄を設けた。また、率直な意見を取り入れるため、従来の教室でマークシートを記入する方法ではなく、自由な時間に Web で回答できるように改善を行った。

個人の評価については、各系長等及び各個人にフィードバックした。

③学習指導法等の工夫・改善事例報告書の作成

前年度の授業評価アンケートで基準点を超えた教員から、授業での取り組みを記載した学習指導法等の工夫・改善事例報告書を提出してもらい、グループウェアに公表した。

なお、当該報告書を基に優れた取り組みを行った教員を教員表彰に推薦し、3人の教員が表彰された。

④参加会の開催

本校以外の有識者に、教育研究活動等の状況についての評価及び助言等の提言をいただき、改善を行うことを目的とした参加会の開催時期を見直した。例年は年度末に実施していたが、参与の日程調整が比較的容易であることや、より正確に活動を総括するために翌年度に実施することとした。

⑤FD研修会の開催

教員の教育改善・能力の向上を目的としてFD研修会を次のとおり開催した。

第1回

- ・ 開催日：令和5年12月22日（金）
- ・ 題目：国立高専教育国際標準（K I S）評価について
- ・ 講師：機構本部理事長特別補佐 本江 哲行
機構本部学務参事補 上原 信知

第2回

- ・ 開催日：令和6年3月4日（月）
- ・ 題目：情報セキュリティセミナー
- ・ 講師：アルファテクノシステム株式会社
代表取締役 鈴木 康之

⑥自己点検・評価委員会の開催

第1回

- 開催日：令和5年7月19日（水）
- 議 題：1. 令和5年度前期分授業評価アンケートについて
2. 令和5年度教員表彰の推薦者について
3. 令和5年度参与会参与
4. 教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せの一部改正について

第2回

- 開催日：令和6年1月19日（金）
- 議 題：1. 令和5年度後期授業評価アンケートの実施について
2. 令和5年度担任評価アンケートについて

第3回

- 開催日：令和6年2月21日（水）
- 議 題：1. K I S 認定評価申請書の提出について

⑦教育改善計画会議の開催

「教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せ」に基づき、教育の改善内容について協議する、教育改善計画会議を次のとおり開催した。

開催日：令和6年3月14日（木）

- 議 題：1. 定期試験問題及び授業改善計画書に基づく協議
2. 成績評価に用いる答案等の保存の徹底について
3. 今後の教育自己点検について

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 授業評価アンケートは、全教員へフィードバックし教育改善の一助とした。
- ② 担任評価アンケートを全担任教員へフィードバックし教育改善の一助とした。今年度から建設的な意見を受け入れることを目的に新たに自由記述欄を設けた。また、率直な意見を取り入れるため、従来の教室でマークシートを記入する方法ではなく、自由な時間に Web で回答できるように改善を行った。
- ③ 「学習指導法等の工夫・改善事例報告書」から優秀な取り組みを行った教員 3 人を表彰したことにより、教員の教育改善の意欲を高める一助とした。
- ④ FD 研修会は、(1)KIS 認証評価、(2)情報セキュリティを題目として 2 回開催し、教育支援を推進するための一助とした。
来年度もテーマを精査の上、実施していく。

(3) 今後の展開

令和 6 年度は KIS 認証評価を受審する予定である。受審をきっかけとして、より強固な自己点検体制を構築する。